

J P C A
創立 35 周年記念誌

コンサルタント活動 35 年の歩み」
1983 年～2017 年

平成 30 年 10 月
2018 年 10 月

日本包装コンサルタント協会
Japan Packaging Consultant Association

<http://www.geocities.jp/jpackcosul/>

目 次

1. 挨拶

日本包装コンサルタント協会 会長 住本充弘	4
日本包装コンサルタント協会関西支部長 今田克己	5
日本包装コンサルタント協会 会員 朝岡保雄 (1987 年入会)	6
日本包装コンサルタント協会 会員 太田茂 (2001 年入会)	7

2. 御祝辞 創立 35 周年を迎えて

(1) 公益社団法人 日本包装技術協会 専務理事 越野滋夫	10
(2) 日本包装管理士会 会長 山田孝志	11
(3) 技術士包装物流会 会長 野田治郎	12
(4) 日本包装専士会 会長 安原明世	13

3. 日本包装コンサルタント協会 35 年の歴史

1983 年度 (昭和 58 年度)	14
1984 年度 (昭和 59 年度)	16
1985 年度 (昭和 60 年度)	16
1986 年度 (昭和 61 年度)	16
1987 年度 (昭和 62 年度)	16
1988 年度 (昭和 63 年度)	17
1989 年度 (昭和 64 年度・平成元年度)	17
1990 年度 (平成 2 年度)	18
1991 年度 (平成 3 年度)	19
1992 年度 (平成 4 年度)	20
1993 年度 (平成 5 年度)	20
1994 年度 (平成 6 年度)	20
1995 年度 (平成 7 年度)	21
1996 年度 (平成 8 年度)	21
1997 年度 (平成 9 年度)	22
1998 年度 (平成 10 年度)	22
1999 年度 (平成 11 年度)	23
2000 年度 (平成 12 年度)	23
2001 年度 (平成 13 年度)	24
2002 年度 (平成 14 年度)	24
2003 年度 (平成 15 年度)	26
2004 年度 (平成 16 年度)	26
2005 年度 (平成 17 年度)	29
2006 年度 (平成 18 年度)	30

2007 年度（平成 19 年度）	・ ・ ・ ・ ・	31
2008 年度（平成 20 年度）	・ ・ ・ ・ ・	32
2009 年度（平成 21 年度）	・ ・ ・ ・ ・	35
2010 年度（平成 22 年度）	・ ・ ・ ・ ・	36
2011 年度（平成 23 年度）	・ ・ ・ ・ ・	38
2012 年度（平成 24 年度）	・ ・ ・ ・ ・	39
2013 年度（平成 25 年度）	・ ・ ・ ・ ・	42
2014 年度（平成 26 年度）	・ ・ ・ ・ ・	43
2015 年度（平成 27 年度）	・ ・ ・ ・ ・	45
2016 年度（平成 28 年度）	・ ・ ・ ・ ・	47
2017 年度（平成 29 年度）	・ ・ ・ ・ ・	48
4. 会員顔写真	・ ・ ・ ・ ・	51
資料編		
協会年表	・ ・ ・ ・ ・	54
出前講座一覧表	・ ・ ・ ・ ・	57
寄稿論文一覧表	・ ・ ・ ・ ・	59
35 周年記念誌制作を終えて	・ ・ ・ ・ ・	62

挨拶

日本包装コンサルタント協会の 35 周年記念にあたって

日本包装コンサルタント協会
会長 住本充弘



当会は、2018 年 11 月 1 日に創立 35 周年を迎えます。先輩諸氏及び現在の会員のご活躍を冊子にまとめ、一つの区切りを行いたいと思います。

約 1 年前に記念誌編集委員会を立ち上げ、鹿毛氏、白倉氏、住本の 3 名で作業を進めてきました。中でも鹿毛氏は精力的に資料集めにご努力いただき、退会会員に連絡を取り、活動資料や写真などを集め中心となって編纂していただきました。この場を借りてお礼申し上げます。

当会の 35 年の歴史の歩みが本冊子にまとめられました。先人の方々の包装に対する熱意が当会の設立につながり、日本のみならず、海外の包装の発展に少なからず貢献してきました。

35 年間の会員諸氏の活動を振り返っていただき過去の活動を知ることにより、そこから何かのヒントあるいは考え方、対応の仕方を参考として、今後の当会の会員の方々のより一層のご活躍の参考になればと思います。

包装を取り巻く環境がこの 35 年の間に大きく変化してきました。基本的な包装の三大機能は変わりませんが、環境対応、包装のコミュニケーションツールとしての役割が重要となってきました。

環境対応も 3R 活動を続けていますが、Sustainable Development Goals (SDGs) への対応、それから派生した企業に求められている ESG、環境 (Environment)、社会 (Social)、ガバナンス (Governance) への対応が重要となってきています。

当会の会員は、包装の専門家として、相談、指導、開発に対して責任ある対応をすべく、日ごろから不断の自己研鑽を積み、一層高い倫理観を持って活動しています。

今後とも、会員一同、包装業界関係者と共に包装の発展に尽力する所存です。

35 周年記念誌の発刊に際し、当会の生みの親である公益社団法人日本包装技術協会、技術士包装物流会、日本包装専士会、日本包装管理士会から祝辞を頂きお礼申し上げます。

当会、会員一同 100 歳の人生において、なお現役で活動いたしますので、今後ともよろしく願いいたします。

挨拶

JPCA創立35周年によせて

日本包装コンサルタント協会
関西支部長 今田克己



JPCA創立35周年、おめでとうございます。

私は2013年に関西支部に入会して6年目になります。それまでの38年間は大阪のトイレタリー製品の製造会社、神戸の外資系食品製造会社に勤め、包装材料を企画設計し、品質確認をして最終製品に関わってきました。日本包装技術協会や近畿包装研究会、技術士包装物流会などにも長年お世話になりそれなりのネットワークも築いてきました。

JPCA関西支部に入会してみると生活者に直結する最終製品の包装設計に携わった会員が少なく、包装材料を使う立場からの考え方や意見をディスカッションする良い場になってきたように思います。また包装技術セミナーも今年で8年目になり、受講者はもとより講義をする側も新しい技術や情報に基づいて包装に向き合う良い機会になっていると思います。

日本の包装技術は個別の商品については世界でトップクラスの技術でレベルの高い包装を提供しています。軟包材のハイバリア技術、印刷の仕上がりの完璧さ、包装機械の正確・精密さなど枚挙に暇がありません。一方では包装はどんな製品にも必要なものであるにもかかわらず、社会的にはあまり重要視されない傾向があることを感じます。最終的には廃棄されるものに手間や費用をかけたくない、という心理が働いているのでしょうか。特に安全や包装に係る法整備については世界標準とは言えないレベルにあります。包装関係で国内で同一基準で規制されているものは唯一、容器包装リサイクル法くらいである。食品衛生法や乳等省令は時代に合っているとは言えないし、具体的でない部分もあります。今、必要なことは、世界はどこを向いて動いているのか、国際標準はどのようなになっていて、日本はどうしていくのかである。

食品包装を例にすると食品衛生法の冷凍流通の温度が国際基準よりも3℃高い-15℃が日本の基準であり、チルド流通の温度は国際基準と同じ5℃上限であるにも関わらず、別に上限温度が10℃の冷蔵流通温度が設定されており、チルドと冷蔵が混同されていることもよくある。もちろん、これらの温度は業界基準を除いての話である。国際基準よりも温度が高いことにより、充填条件や包装仕様が左右されることもある。海外で5℃上限のチルド流通に適応した無菌充填包装されたものが日本に輸入され、10℃上限の冷蔵流通に乗ってしまうと賞味期限が短くなる。最悪、雑菌が繁殖する可能性がある。ということは、遡って現地での充填包装時にさらに厳密な無菌状態を確保しなくてはならないということにもなってくる。

また、プラスチックの添加剤はポジティブリスト（以下PL）で安全性が管理されて

いるが、法律にはなっていない。海外からみると法律でないものは努力目標であり、強制力はないと考えるのが国際標準である。印刷インキのネガティブリスト（以下NL）管理は極論すれば、リスト以外の化学物質は何を使ってもよいことになる。今まで使ってきた物質が、ある日突然“クロ”になるリスクを抱えているのである。海外のPL物質と日本のNL物質に整合性がないことなどは論外である。EUをはじめアジアでも安全に関してPL管理にスピード感をもって進んでいるが、日本では具体的な動きが見えない。各企業は必要に応じてEU基準適合品など開発済みや採用済みで対応しているが、国として法律になっていなければ、海外からみた場合、何もしていないのと同じである。

東京オリンピックを契機に食品提供の国際標準化が話題になってきたが、今や、商品が地球規模で、ボーダーレスで移動しているご時世である。国際標準化を目指すなんてもう古い。あつて当然、さらに何を求めるかが、次の国際標準である。それらを睨みながら、企業コンサルティングや講演・講義を行っていくのが、我々、包装コンサルタントの役割ではないだろうか。

以上

挨拶

日本包装コンサルタント協会の創立の頃

朝岡保雄
(1987 年入会)



「輸送・輜重^{*1)}（シチョウ）が兵隊ならば、蝶もトンボも鳥のうち」などと揶揄して兵站^{*2)}（ヘイタン）を軽視していた旧日本軍は、膨大な餓死者と戦病死者を出して、綿密な兵站戦略に支えられていた米軍に完敗したことは歴史の示す通りである。戦後においては企業間の競争において兵站の重要性は早くから認識されるようになっていた。

私が「家電事業本部長の直属スタッフとして、“家電品の包装”をやれ」との指令を受けたのは、昭和42年（1967年）2月のことで、時は正に”キューバ危機“と”ケネディ大統領暗殺事件“を経て、米国が”アポロ計画“で月を目指していた時期に当たり、システム思考と大規模戦略計画の重要性が叫ばれていたのである。

この当時の大量包装・大量長距離輸送の対象商品の代表格の一つは家電製品であった。これに限らず、メーカー各社の包装担当技術者は、耐振動・耐衝撃などを初めとして新しい包装技術を開発すべく、情報収集や相互学習と切磋琢磨及び啓蒙活動の拠点として、日本包装技術協会（以下、JPI という）によく参集していたのである。

この頃の日本の政治・経済情勢は、池田内閣による「所得倍增」の政策が軌道に乗り、製品の生産量は年々、等比級数的に増加しつつあった。今から見ると隔世の感があるが、当時の包装・輸送部門担当者の間ではこの量を将来に亘って運び切れるかについて

恐怖にも似た危機感があったと記憶している。

このような環境の中で包装・物流をシステムティックにとらえて研究する理論として、“ロジスティックス”が提唱され、当時、本州ビルにあった JPI では、国家試験である「技術士」の資格の取得について啓蒙と受験の支援活動が積極的に進められ、資格取得者が徐々に増えていったのである。当時の JPI の事務局長で常務理事であった楠田洋氏は、機を見るに敏な人だったから、この技術士メンバーを統合して包装技術の専門家集団を結成して JPI の活動をリードしてもらうべく昭和 40 年代（1965 年）後半乃至 50 年代（1975 年）に「日本包装技術士会」の設立を提唱され、JPI の技術委員会を招集して説明があった。

私もこの時に招集されたメンバーの一人として出席していたからよく覚えているが、この名称で活動を少し初めて間もなく、日本技術士会会長から「国家資格の“技術士会”の名称を民間団体が勝手に使ってもらっては困る」というクレームが来て再度会合がもたれ“包装同友会”の呼称を使うことになった。これが現在の“技術士包装物流会（JPLCS）”の前身である。

楠田氏は、技術士事務所を開設した数人技術士に対して働きかけを行い、日本包装コンサルタント協会が 1983 年設立された。私は、当時、在職中であったので、技術士事務所開設後の 1987 年に入会した。

- *1)：輜重（シチョウ）：軍隊で、前線に輸送、補給するべき兵糧、被服、武器、弾薬などの軍需品の総称のこと。
- *2)：兵站（ヘイタン）：軍の中継点であり、世界中で広範に使用される英語での「logistics」のこと。

挨拶

日本包装コンサルタント協会 35 周年に寄せて
日本包装コンサルタント協会（元関西支部長）
（株）PDS 取締役会長 太田 茂
（2001 年入会）



創立 35 周年おめでとうございます。

関西支部の発足当時はメンバーの数もクライアントからの情報量も少なく組織の存在価値すら？（ハテナ）の思いで、同好親睦会的な技術勉強会に努めておられました。

前任の真多支部長から『協会に新風を吹かせて社会に認知してもらえるような関西支部にしたい』とのお誘いを受け、以来 15 年が過ぎましたが未だ思いの半分も出来ておりません。その間、コンサル業務に期待された後続の人たちが退会されていくことも多く経験しました。

これから 50 年、100 年と協会が社会に認知、評価され発展されることを願い、いくつかの提言をさせて頂きたいと思います。

私はマテハンメーカー出身で物流士（物流管理士）の資格を得、その流れで 30 年前に

<第 1 回 物流技術調査団>（通産省後援）に参加、米国各地の流通センターを視察、当時の物流最先端技術を知ることが出来、斬新な設備機器もさることながらコストパフォーマンスに適合した運用システムの存在に鮮烈な思いを持ちました。『短時間配送も 0.3%以下の誤配率も必要でしょうが、それを望まず低コスト配送を望む顧客もいるのですよ。このシステムはそれも考慮しています』この言葉が、物流・包装作業の原点を表していると思っています。

以来 20 年間の包装システムエンジニアを国内外で実務経験し“ガラパゴス化の日本”と世界標準である先端技術の包材・設備・管理情報・IOT・AI を総合的なシステムの中で捉え、クライアントの要求には、最先端技術知見を表現した問題解決のシステム提案をしていくやり方に、日本とは大きな優劣の差異があることを感じています。

いまでも物流の先端技術はハノーバメッセ（ドイツ）、包装はインターパック（ドイツ）、パックエキスポ（アメリカ）にあると思います。オランダで 95 年にはロボットを使った自動仕分設備、スウェーデンの AI 機能を持った棚割り付け設備、ドイツでも加工から出荷まで完全無人化設備など、その当時から既に存在しており、今日の欧米では機器の優劣だけでなく、コストパフォーマンスと最適システムの優劣競争の時代となっています。

さらに最近ではアジア・中国で開催されているプロ・パックアジアでも、先端技術の優劣は別にして“物流と包装の一元化”が基本にあり、ロボットによる無人化、IOT、AI への具体的な取り込みが始まっています。

包装・梱包材料、包装設備、物流機器、輸送保管設備、情報管理システム他、日本型の先端技術は、個々メーカーの得意性を活かした先端技術に特化しています。システムとして市場競争に晒される世界とは違っています。

どの業種・業界もこれからは世界標準の中で競うのですから『問題解決には個々の先端技術の導入だけでなく、情報⇄生産⇄包装⇄物流⇄消費者までをサークルとして捉え、業種業界別のクライアントに沿ったコストパフォーマンスを含めた最適システムを創造し、それを具現化していくこと』がコンサルタント業に必要な役割かと考えます。

直接的な利益を生まない業界で、公的なコンサルタント業務を目指す私たちの立ち位置でしかできない役割は、“ガラパゴス化の日本”から世界標準を知ったうえで、世

界標準以上の先端技術（特に応用編）を駆使し、＜情報・包装・物流システムの斬新なシステム提案＞にあるのではないのでしょうか。これらの分野では欧米を中心に既に先人達があり、彼らから公的機関の特権として学べることも期待しての提言です。

＜提言＞

1. 物流協会（管理士会・JILS 他）や他の団体との情報交換会を開催する中で、組織体を統合し、国にも提言できる組織力と幅広い情報収集力をえる。民間企業とより離れた立ち位置のコンサルタント協会がその役割を担う。
 - 1) 各団体の目指す役割調査とその組織力のリスト化
 - 2) 各団体の統廃合による組織力のアップ
 - 3) 包装・物流の国際展開の＜道しるべの役割＞を担う。
2. 世界各国の日本人商工会議所、JETRO、海外の主要な関係団体（シンガポールの包装協会 PCS）（マレーシアの物流協会 MIDA）との現地状況の情報交換により民間企業ではやれない公正な包装・物流問題解決策を提案する。
 - 1) 海外企業（当面は日系企業）を当地主要場所に集めて＜最新包装・物流セミナー＞を開催する。今、日系企業が一番望んでいることです。
 - 2) 日本国内企業の海外展開＜道しるべの役割＞を担う。
3. コンサルタント協会として確実に、外部（国からの補助等）より費用が入るようにする。“何を行うにしても最低限の経費が必要で、お金が動かない社会活動はあり得ない” コンサルタント業で利益を出すのかセミナー的なものか、公的な支援作業かは別にして何らかの経費をコンサルタントメンバー全員に支払えるようにする。

以上の事柄を行うには、強い指導力と多くの交渉時間、経費が必要となります。冒頭の同好親睦会として、情報入手が困難になってきた最新の包装技術を勉強することも良いでしょうが、今一度、考えてみませんか。

2. 御祝辞 創立 35 周年を迎えて

(1) 公益社団法人 日本包装技術協会

日本コンサルタント協会
創立 35 周年を祝して



貴会創立 35 周年を心よりお慶び申し上げます。

貴会とは日本包装技術協会の様々な催物を通して交流を深めており、厚くお礼申しあげます。

貴会におかれましては、1983 年 11 月に設立以来、包装の専門家集団として、包装界の発展に寄与されてきました。この間の協会の皆様の並々ならぬご尽力に感謝し、心より敬意を表します。

また、貴会は、日本包装技術協会の関連団体として、東京国際包装展や、包装人材育成など日本包装技術協会の主要事業に協力されてこられました事、重ねて感謝いたします。

さて、わが国の包装産業は、今までに構築してきた技術力や幅広い知見を活かし、さらにこれからの社会の変化とニーズに応える、より高度で進化した包装の開発により、国際競争力を強化するとともに、昨今の課題であるサステナビリティ、インダストリー 4.0 等への貢献を期待されております。

日本包装技術協会も「公益社団法人」としての責任と自覚をもって、当会の基本事業である包装の知識及び技術の普及、推進や、次世代を担う包装人材の育成等の事業をさらに充実させ、豊かな社会と活力ある包装産業の実現を目指して、様々な事業を展開しています。一方、わが国を中心にアジア諸国の経済発展は、様々な「包装」ニーズを生み出し、我々先進国の果たす役割は一層重要になってきております。

貴会におかれましては、包装専門家集団として、包装情報のプラットフォームとしての役割を存分に果たし、わが国の包装技術の向上に寄与されております事、心より尊敬申し上げます。

貴会がますますその活動の場を拡大され、多大な成果をあげられている事は、貴会設立以来の友好団体として、お慶び申し上げます。

最後になりましたが、貴会とともに「包装合理化と生産性向上」を推し進める友好団体として貴会創立 35 周年の祝辞に代えさせていただきます。

2018 年 7 月吉日

公益社団法人日本包装技術協会
専務理事 越野滋夫

(2) 日本包装管理士会

創立 35 周年に寄せて

日本包装管理士会会長
山田孝志



この度、日本包装コンサルタント協会が創立 35 周年を迎えられ、誠におめでとうございます。会員の皆様による様々な活動を通じて日本の包装業界の発展に尽力されてきた 35 年間であったと思います。

日本包装コンサルタント協会は、日本包装管理士会の関係者も多く所属し、日本包装技術協会の主催する東京パック展での共同展示やイベントの実施等で普段から交流を重ね、親密な関係の団体です。これからも様々な機会で行い、良好な関係を続けていきたいと思っています。

さて、今から 35 年前の 1983 年の世相をみると、総理大臣は中曽根康弘、アメリカ大統領はロナルド・レーガンで、「ロン・ヤスの時代」で日米関係は安定し、経済も穏やかに成長するなど明るい未来志向の年でしたが、一方で、大韓航空機撃墜事件が起きた年でもあり、朝鮮半島は冷戦最中で今の融和ムードはありませんでした。

また、包装界 10 大ニュースに「清涼飲料向けガラス壺が 10 億本を記録」という記事がありました。飲料容器の市場はまだワンウェイ壺の全盛期でした。前年の食品衛生法改正で清涼飲料用に PET ボトルの使用が認められてから、PET ボトルの市場は拡大しました。特に「水」を充填した PET ボトルは、安全でおいしい水道水がある日本でも普及し、水を買うことが普通になる時代が来るとは当時は考えられませんでした。

現在の包装技術は環境問題への対応や新素材の活用など高度で複雑化していますので、コンサルタント業への期待はさらに高まることと思います。今後の日本包装コンサルタント協会の発展を祈念し、お祝いのご挨拶と致します。

(3) 技術士包装物流会

日本包装コンサルタント協会創立 35 周年によせて

技術士包装物流会会長
野田治郎



日本包装コンサルタント協会の創立 35 周年を心よりお祝い申し上げます。

貴会は、昭和 58 年（1983 年）に当時の JPI 楠田常務理事の構想のもとに、包装コンサルタントを職業とする 10 名で設立されました。その後会員数を増やし 35 年間に亘り包装・物流に係る様々な問題解決に取り組まれ、その指導を通じて包装・物流の社会的価値を高め産業の発展に寄与してきた功績はまことに大きなものがあります。

現在、包装・物流に関しては高齢化社会、人口減少、循環型社会、プラスチックの海洋汚染、商流のグローバル化、フードロス対策、安全安心の確保など、課題が山積しています。

特に安全安心の確保については、最近、わが国の強みである「ものづくりに対する優れた品質」が問われており、サイレントチェンジ対策などサプライチェーン全体で取り組むことが求められています。折しも、食品包装分野では、欧米に後れを取ったポジティブリスト制度が法律化され、2 年後の 2020 年 6 月までに施行されます。施行後はポジティブリストに適合しない食品用合成樹脂製器具・容器包装は製造、販売、使用ができなくなります。この 1 年の間に、対象範囲、ポジティブリスト、運用方法、確認体制などが議論され決まっていくものと思われそうですが、その動向を注視するとともに、今から問題ないように準備しておく必要があります。

技術士包装物流会は昨年 50 周年となりましたが、新たに技術士になり入会する人も増え若手が活躍できる体制ができてきました。当会といたしましても、貴会との連携・協力をさらに深め、今後の包装・物流業界の発展に邁進したいと願っています。

最後になりますが、貴会の一層の飛躍と会員の皆様方のご健勝、ご活躍を心から祈念申し上げ祝辞と致します。

(4) 日本包装専士会

日本包装コンサルタント協会設立 35 周年記念に寄せて

日本包装専士会

会長 安原明世



このたびは、日本包装コンサルタント協会設立 35 周年を迎えられたこと、誠におめでとうございます。心よりお慶び申し上げます。

貴会が設立された 1983 年は東西冷戦の中、中曽根内閣とレーガン大統領の体制で、3 公社（日本専売公社、日本電信電話公社、日本国有鉄道）が存在感を示していた時代でした。モノの値段は一律の定価制度であり、経済はオイルショック後の安定成長が続いていました。

貴会は、包装の果たす役割が現在に比べて認知度の低いその様な時代から、製品の差別化や多様化に加え、技術開発を含めたソフト面、ハード面で包装を含めた全体的な物流の合理化を早期から提唱され、その活躍の場を広げて来られました。また、貴会で発行されている会報の創刊号に当時の桑会長様も述べておられます様に、当時は一般企業にとって「コンサルタント業」の認知が低い社会環境の中、労を惜しまずに基盤を築き上げて来られたことで社会への大きな貢献を果たされて来ました。

一方時代は大きく変革し、現在の世の中はサステイナブル社会を目指し、その手段の一つとして AI, IOT を中心としたスマート化が等比級数的に進んでいます。通信機器業界や家電業界、そして自動車業界等身の回りのあらゆる業界で新たな価値基準の文化が始まりつつある様に感じます。仕事の進め方もダイバーシティ化し、より選択の幅が広がりつつあると思います。

「包装」とは、環境保全や再生システムを含むあらゆるモノ創りから消費まで、つまり製造業界から流通・販売業界まで幅広く関わる重要な位置づけとなりつつあると思います。特にロジスティックスの新たな動きと共に、包装業界は従来以上にその果たすべき役割と活躍の場が広がっていると感じます。

私は貴会のホームページに掲載されている過去の会報や懇話会を拝見させて頂きました。そこには当時から、未来を予測するかの如く各々専門分野の立場からの確な技術紹介や未来予測が多く掲載されていました。会員の皆様の専門性とレベルの高さに感心しました。これから先の未来には会員の皆様のより一層の知識が求められ、活躍の場が増えてくことと信じます。

未筆ながら、日本包装コンサルタント協会様の一層のご発展と皆様方のご活躍を祈念致しまして、お祝いの言葉とさせていただきます。

3. 日本包装コンサルタント協会 35 年の歴史

1983 年度（昭和 58 年度）

□ 日本包装コンサルタント協会が設立経過

日本包装コンサルタント協会が 1983 年 11 月 1 日に設立された。本会の目的は、包装及び物流技術等の向上改善指導を通じて、生産、流通及び消費の合理化を図り、もってわが国産業の発展に寄与することを目的とする。

設立の背景について、桑靖彦氏の回顧録（1995 年 8 月会報 13 号）によれば、1983 年 7 月に藤森工業、名古屋の某社を経て、47 年間のサラリーマン稼業を終えた。幸いに体力、気力も十分にあったので、日本包装技術協会の創立（1963 年）以来からお世話になった楠田常務理事を訪ね、退職の挨拶を兼ね、何かお手伝いをするには無いか相談に行った。

楠田氏から「貴方は、既に技術士の資格を持っておられるし、ちょうど会社からも離れられたチャンスでもある。技術士事務所を独立して開設し、包装コンサルタントとしてスタートされるように」と勧められた。技術士法施行後、通算 10 年近く、技術士第 2 次試験の試験官を務めたこともあり、先輩や現役技術士とも交流もあったので、包装コンサルタントの開業の決心が定まった。私の専門技術士開業の決心を聞いた楠田氏は、「丁度、貴方も良くご存知の篠崎さんと三浦さんが新たに技術士事務所を開設されるので、御三方の専門技術士出発を激励する会を日本包装技術協会として催しましょう」ということになり、篠崎市郎氏、三浦渉氏と小生の併せて 3 名の技術士開業激励会を催して頂いた。

日本包装コンサルタント協会の設立は、日本包装技術協会の創立（1966 年）以来行ってきた諸般の事業の中でも日本包装管理士会（1966 年創立）、日本包装専士会（1981 年 JPI 包装アカデミー講座開設、1987 年創立）、技術士包装物流会（1967 年創立）に続く職能包装人集団の完成したもので締め括りの部分をなすものであった。従って、協会構成員は、包装、物流のコンサルタントを業とする者に限定された、

10 月 28 日に日本包装技術協会の楠田氏から日本包装コンサルタント協会、発起人会（10 月 31 日）、設立総会の案内が寄せられた。内容は協会会則案（名称、目的及び事業、会員資格、会費、役員など）、役員（案）であった。

日本包装技術協会常務理事 楠田 洋 氏（当時）



□ 日本包装コンサルタント協会設立

11月1日に設立総会を日本包装技術協会会議室で開催した。協会会則及び役員名簿は次の通りであった。

□ 日本包装コンサルタント協会 会則

第1条 本会は、日本包装コンサルタント協会（Japan Packaging Consultant Association）と称する。

第2条 本会は、包装コンサルタントに携わる者の相互交流を通じて包装の発展に寄与することを目的とする。

第3条 本会は、次の事業を行う。

- (1) 会員相互の情報交換
- (2) 会員の資質向上のための研さん
- (3) 包装コンサルティングの国際連携
- (4) その他、本会の目的を達成するために必要な活動

第4条 本会の会員は次のいずれかに該当するものとする。

- (1) 包装関係技術士または包装管理士事務所を有して包装コンサルティングを業とするもの
- (2) 包装に関するエンジニアリングを業とするもの
- (3) 包装に関するコンサルティングを業とするもの
- (4) 以上3号に準じるもの

第5条 会員は所定の会費を納める。継続して2年以上会費を滞納した会員は原則として会員の資格を失う。

第6条 本会につぎの役員をおく。役員は総会において選出する。

- | | |
|-----|-----|
| 会 長 | 1 名 |
| 副会長 | 2 名 |
| 理 事 | 若干名 |
| 監 事 | 1 名 |

第7条 総会は毎年1回開き、重要事項を審議する。

第8条 理事会は役員を以って構成し、必要の都度開催し会務を執行する。

第9条 本会の事務所は東京都内におく。

□ 日本包装コンサルタント役員名簿

会長：桑靖彦（桑技術士事務所 所長）

副会長：三津義兼

（レンゴーパッケージングシステム(株) 社長）

副会長：木村年次（木村技術士事務所 所長）



理事 : 井関義孝 (井関技術士事務所 所長)
同 : 篠崎市郎 (篠崎技術士事務所 所長)
同 : 三浦渉 (三浦技術士事務所 所長)
同 : 井上祐夫 (井上技術士事務所 所長)
同 : 鹿島国彦 (鹿島エンジニアリング 社長)
同 : 楠田洋 (日本包装技術協会 常務理事)
監事 : 塩屋幸博 (シオヤ・エンジニアリング 代表)

1984 年度(昭和 59 年度)

□ 会員名簿の作成と広報活動開始

役員 10 人 (役員名を外す) と新規会員濱口啓一氏 (濱口技術士事務所所長) の事業者名称、連絡先、専門部分野の会員名簿を作成し広報活動を行った。

日本包装コンサルタント協会は、包装、物流面で経験豊富でかつ信頼し得る選ばれた専門家集団であります。包装、物流関係の諸問題ならびにそれを取巻く経済社会面に及ぶ問題解決にも、必ずやお役に立つものと確信を持っております。積極的なご利用をお待ちしています。

コンサルティングの主な内容

- (1) パッケージシステムの導入、(2) 包装・物流関係の経営相談、(3) 消費者包装技術の指導、(4) 輸送包装技術の指導、(5) 海外技術指導および系列会社指導、(6) 包装・物流関係問題の解決処理

1985 年度(昭和 60 年度) 会員 12 名 (本部 11 名、関西 1 名)

1986 年度(昭和 61 年度) 会員 18 名 (本部 15 名、関西 3 名)

1987 年度(昭和 62 年度) 会員 27 名 (本部 23 名、関西 4 名)

□ 会報創刊号発行

会報発刊のご挨拶より引用する。

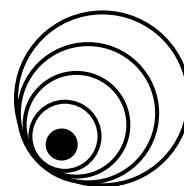
今回私どもの仕事をより知っていただくために、日本包装コンサルタント協会の定期会報を発刊することになりました。当協会のコンサルタント業務も国内や海外の委託業務が増加してきました。今後、受注を幅広く進めるために、協会の内容や会員の専門分野などを知ってもらうために、会報を発行した。内容は次の通りである。



「段ボール工業設備実態報告書をみて」、「物流費考察への回顧」、「遠赤外線放射新素材とその利用」、「私の契約書方式について」

□ ロゴマーク

日本包装コンサルタント協会のロゴマークは、下図のようになっています。このロゴマークについては、1984 年の会員名簿の作成時には使用されていません。1987 年会報創刊号以降に使用されています。



会報に使用されているロゴマークをもとに規則性を持たせた図形が、2007 年 12 月 6 日の理事会で決定されています。

1988 年度(昭和 63 年度)

□ 木村年次氏が会長に就任

□ 会員 37 名（本部 29 名、関西 8 名）



1989 年度(昭和 64 年度・平成元年度)

□ 改定名簿作成「信頼できる知能集団」

会員紹介として、顔写真付きで連絡先及び専門分野を表記したもの。会員数 40 人、A4 版両面印刷 8 頁、役員名簿及び運営委員会の名簿（総務、会員、財務、広報並びに業務委員会の 5 つの委員会）を表記。

日本包装技術協会(JPI)の副会長 楠田洋氏の添え言葉「プロフェッショナルな燃える包装集団に栄光あれ」の中から一部抜粋すると、「・・・6 年前、桑靖彦氏が名古屋の会社の社長を辞めて戻ってこられた時、私は JPI の最後の残した仕事のひとつとして、日本の包装におけるコンサルティング業務の確立を願い、日本包装コンサルタント協会の設立を企図し、その運営を桑氏にお願いしました。爾来 5 年、当初数名の同士で出発したこの協会も、幸い各位のご理解とご協力により今日、団体の形をようやく整える域にまで達してきたここは誠に喜びに堪えません。プロフェッショナル燃えるこの包装集団に栄光と発展を祈ってやまない次第であります。 1989 年 10 月

信頼できる知能集団表紙、 会員紹介 会員 38 名（本部 27 名、関西 11 名）



1990 年度(平成 2 年度)

- 松本光次氏が会長に就任

- 各種委員会の設立

事業委員会（セミナーの実施、東京パック）、広報委員会（会報、パンフレット発行）、会員委員会（会員増強）、財務委員会などの委員会を立ち上げた。

- 東京パック 90

Q&A コーナーで包装技術相談を始めて行った、会場は晴海会場に毎日 5 名、幕張会場に 1 名で延べ 30 名以上の方に協力を頂いた。協力者からも大変貴重な体験をしたとの評価であった。

- 会員活動実績例（協会幹旋以外も含む）

講演・講義、執筆活動、内外技術指導が活発であった。例えば、包装管理士講座 11 件、その他 JPI 関連 3 件、物流管理士講座 5 件、日刊工業 2 件、公的機関 4 件等。執筆活動については、段ボール事報、月刊消費者、Carton Box、日刊工業、フード・パッケージング、包装技術、物流、Packpia、ミート・ジャーナル等。

技術指導は 15 件、海外技術指導延べ 7 件（韓国、タイ、台湾、シンガポール）



□ 「包装技術者として我々は今何をなすべきか」 答申

日本包装技術協会から「我が国の包装活動の総点検と、21世紀に向けての包装のあり方を探る」の趣旨のモデル作成の委託を受け、3月27日に答申書を提出した。

議長に木村年次氏他10名が携わった。討議は輸送容器、物流、包装機械システム消費者包装の各部門に分かれて5回以上行い、過去20年間の総点検し、問題点と課題を摘出した。

□ 第1回包装廃棄物セミナー

3月27日、学士会館にてセミナーを開催した。講演タイトルは次の通りである。残念ながら外部講師のみであった。

「プラスチック廃棄物の処理とリサイクル」、「廃棄物処理と再資源化に対する今後のあり方」、「廃棄物処理と企業責任の今後のあり方」、「環境アセスメントと包装産業の対応」、一般参加者、招待者、会員を含めて206名参加成功裡に終了。

- ・会員40名（本部29名、関西11名）

1991年度(平成3年度)

□ 業界団体交流会

3者交流懇親会（日本包装技術協会、日本包装専士会（1987年4月27日創立、当会）が11月26日、松本楼で行われ、相互の密接な交流関係ができた。

□ 第2回 包装廃棄物セミナー

11月18日、学士会館にてセミナーを行った。

「小売業の立場から、今、環境問題に取り組んでいる具体的事例と問題点」

「行政の立場から見たヨーロッパの廃棄物政策とドイツの包装廃棄物に関する政令について」、「発泡スチロール製品の使用と再資源化の推進」、「PETボトルのリサイクリングの推進と課題」、外部講師のみ、一般参加者、招待者、会員を含めて115名が参加した。

□ 国際委員会の設置

JPIや各団体機関等の依頼により、韓国、中国、シンガポール、コロンビア、ベネズエラ、チリ、アルゼンチン、ケニアに対して食品包装、段ボール包装・設計、包装機械の技術指導を行った。

国内では、講演・講義、執筆活動、技術指導の受注が盛んであった。

- ・会員45名（本部33名、関西12名）

1992 年度(平成 4 年度)

□ 英文パンフレットの作成

海外活動を積極的に取り組むこととし、英文パンフレットが完成した。

□ 関西支部の発足と関西支部事務所の設置

1986 年には関西支部の会員は 3 名であったが、1992 年には 12 名に増え、関西支部として活動を開始した。有光茂氏が副会長・関西支部長に就任した。

(株) 共立物流システムのご厚意により同社屋内に設置し、活発な活動を開始した。

□ 初代関西支部長 有光茂氏



1993 年度(平成 5 年度)

□ 品質に関する国際認証フォーラムの開催

1 月 27 日に学士会館にて開催した。今回、会員が講師をつとめ、他外部講師 3 名に依頼した。44 名の参加があった。

「ISO 9000 の背景」松本光次氏、

1994 年度(平成 6 年度)

□ JPI 会議室から脱却

JPI の厚意により、定時総会、理事会には会議室を借用させて頂いていたが、都内の区民会館や民間の会議室を借りるようになった。

中央区立明石町区民館で第 9 回定時総会 6 月 24 日

理事会：45 回～50 回、銀座、新富、小舟町、八丁堀区民館で開催

□ 常務理事・委員会制度の廃止

協会会務の簡素化を図り、担当理事が行うことにした。

□ 東京パック 94 への参加

晴海国際見本市場にて 9 月 16 日～20 日まで開催された。JPI 要請に基づいて技術相談を行った。日本包装コンサルタント協会 (JPCA) を広報するために、会の活動状況の

パネルでPRをした。クライアント獲得に努めた。

□ オマーンへ海外技術指導

JETRO の要請でオマーンへ海外技術指導を行った。

1995 年度(平成 7 年度)

□ 研究懇話会の開始

1995 年 9 月から会員相互の研鑽と親睦の目的で開始した。講師は原則として会員が行い、クライアントを含め一般の参加も歓迎することにした。土曜日の午後に 2-3 題を話題提供した。

「環境管理システムの原則と概要」松本光次氏

「容器包装材のリサイクルと法規制」飯島林蔵氏

「鮮度と賞味期間の定量的関係と包装効果」原明弘氏

「機能性包材の最近動向と包装諸問題」中山秀夫氏

「EVOH フィルムの新しい用途例」本石靖夫氏

「包装廃棄物の現状と課題」斎藤龍太郎氏

「作業動作分析を適用した詰合せ包装設計とコストダウン」奥山晃一郎氏

「私のデータベースよもやま話」朝岡保雄氏

1996 年度(平成 8 年度)

□ 濱口啓一氏が会長に就任



□ JPCA 便り

JPI の機関紙「包装技術」に 9 月以降、JPCA 便りを掲載して頂くことになった。

□ 容器包装リサイクル法とその対応セミナー

2 月 13 日、日本教育会館にてセミナーを開催した。会員と外部講師であった。

「容器包装廃棄物のリサイクル技術」飯島林蔵氏

「省資源包材と加工技術」濱口啓一氏、他外部講師 1 名

□ 研究懇話会

「ISO14000S、環境マネジメントシステムの企画と包装」松本光次氏

石原昌具氏

□ 関西支部活動及び研究会

関西支部でも会員相互の研鑽と親睦の目的で勉強会を開始した。

「カートンについて」 真多博志氏

「包装憲章」 有光茂氏

「HACCP」 村山涼二氏

1997 年度(平成 9 年度)

- 21 世紀へ向けてのセミナー開催

21 世紀へ向けての包装課題フォーラム
中央区人形町区民会館、7 月 23 日

「包装材料及び真空包装技術、ラミネート加工技術の最近の動向」 濱口啓一氏

「プラスチック付加価値化の最近の動向」 飯田俊男氏

「環境問題に対応した化粧品・トイレタリー製品の包装設計の動向」尾立良次氏

「品質、コスト、稼働率を基軸にした包装マネジメントの改革」 菱沼一夫氏

21 世紀へ向けての HACCP フォーラム 日本消防会館 11 月 28 日

「定量的鮮度管理と HACCP」 原明弘氏 他外部講師 2 名

1998 年度(平成 10 年度)

□ 環境と包装のセミナー開催

21 世紀に向けての環境フォーラム、品川区総合区民会館、9 月 2 日

「容器包装リサイクル法と平成12年完全施行への企業の対応」 飯島林蔵氏

「ISO14001 と環境マネジメントシステムの構築」 木村勝三郎氏

他外部講師 1 人

環境との調和をめざす包装界の動向、品川区総合区民会館、3月16日

「内外の最新包装市場・製品・技術の動向」 濱口啓一氏

JPCA 便り *Japan Packaging Consultant Association*

二 換 擲

日本包装コンサルタント協会

會長 濱口 勝一

日本包装コンサルタント協会は、包装および物流技術等の向上、改善、指導を通じて、生産、流通および消費の合理化を図り、もってわが国産業の発展に寄与することを目的として、1983年11月1日に日本包装技術協会の下部団体として発足したプロ・コンサルタントの集団であります。現会員は下記の通りです。

発足以来、多数のクライアント企業、団体から温かいご支援を賜りましたことを厚くお礼申し上げます。

環境産業時代を迎え産業環境激変の現在、会員一同クライアントニーズに応える能力向上の研鑽に励んでおります。

今後とも一層のお引立てを賜りますよう伏してお願い申し上げます。

問合せ先 〒104 東京都中央区築地4-1-1 日本包装技術協会内 日本包装コンサルタント協会
(TEL03(3543)1189 FAX03(3543)8970) または直接下記の会員までご連絡ください。

[illegible]

— 60 —

包裝技術 平成8年9月号

[854]

「包装における新材料の開発と技術開発の進め方」 鹿毛剛氏
「EVOH 機能に見る後期の包装材料の進化」 本石靖夫氏
他外部講師 1 人

□ 東京パック 98

東京パックの会場は長年に亘り晴海の国際展示場であった。1995 年に近代的機能を持つ東京ビッグサイトがオープンした。東京パック 96 から新しい会場に移った。

東京パック 98 は、10 月 1 日から 5 日まで開催された。当協会では東ホール PR-7 で従来の 2 倍の面積を割り当てて頂き、「21 世紀草の根相談室」という無料相談室を開催した。また、初日の午後に「21 世紀に向けての環境と包装を考える集い」を開催した。

□ 関西支部活動及び研究会

- ・ 関西支部長 真多博志氏が就任
- ・ 「世界の食品衛生 21 展で包装相談所開設」 インテックス大阪にて、5 月 28 日～30 日
「清涼飲料の最近の技術動向」 村山涼二氏
- ・ 会員 40 名（本部 27 名、関西 13 名）

1999 年度(平成 11 年度)

□ セミナー開催

新世紀の包装フォーラム、品川区総合区民会館、3 月 31 日

「包装における新材料の開発と技術開発の進め方」 鹿毛剛氏

「新包装設計コンセプトの方向」 濱口啓一氏

- ・ 会員 36 名（本部 25 名、関西 11 名）

2000 年度(平成 12 年度)

□ 中山秀夫氏が会長に就任



□ 東京パック 2000

10 月 3 日～7 日まで開催された。包装 4 団体（当協会、日本包装管理士会、日本包装専士会、技術士包装物流会）が協力して「包装と環境プラザ」の準備・運営にあたり、「Q&A」コーナーを行なった。

また、10 月 1 日付で会員名簿を作成し、クライアント等に配布し広報に努めた。

□ 研究懇話会

- 「清涼飲料容器の最近の動向」 鹿毛剛氏
「容器包装リサイクルの現状と問題点」 飯島林蔵氏

□ 関西支部活動及び研究会

- 「99 日本パッケージングコンテスト入賞事例の解説」 有光茂氏
「南ア花観察の旅から」 真多博志氏
「地球環境と廃棄物関連のドイツ事情」 真多博志氏
「容器包装の識別表示の進め方」 真多博志氏
「コンサルタント業務」 太田茂氏

・ 会員 38 名（本部 24 名、関西 14 名）

2001 年度(平成 13 年度)

□ 研究懇話会

- 「包装のデザイン」 横山徳禎氏
「最近のバリアフィルム」 坂本善弘氏
「IT 革命と軟包装業界」 小山武夫氏
「カプセル包装」 池田得三氏
「米国包装業界の情報をどう読むか」 菱沼一夫氏
「食品の安全性」 鹿毛剛氏

□ 関西支部活動及び研究会

- 無料相談所開設（A-Pack 会場内）6 月 13 日～16 日
「ドイツの包装廃棄物分別状況」 真多博志氏
「ISO9000」 江口康哉氏

・ 会員 34 名（本部 23 名、関西 11 名）

2002 年度(平成 14 年度)

□ 出前教育講座

当協会の専門家が企業などへ出向いて人材育成の為の社内教育や技術指導を行う。
「包装問題解決へお手伝い」、「物流問題解決へのお手伝い」、「環境対応問題へのお手伝い」の出前教育講座の 3 つのテーマが完成したので、JPI の包装技術 5 月号 “JPCA 便

り”として、環境問題対応の出前教育とコンサルティングとして掲載していただき、PRに努めた。その後、「包装と食品保存性」、「包装容器の基礎」、「現場管理と改善活動」などのテーマが続いた。出前教育講座の概要についてホームページで紹介している。

「出前教育その他」について、当協会 HP の会報の No. 19 に記載されている。有光茂氏が 1990 年頃提案したが、JPI の教育講座との競合で棚上げになっていた。

□ JPCA のホームページ開設

前年度から準備をしてきた、当協会の広報活動の一環として、JPCA の PR 業務幹旋につながる会員の専門事項の紹介、及び包装・物流の Q&A サービス、包装・物流の出前講座テーマを掲載した。

「ホームページ立上げ奮戦記」については、当協会 HP の会報の No. 19 の小山武夫氏の論文に詳述されている。

□ 海外へも広報活動

JPI 関連団体及び JPCA 友好団体の 88 団体に JPCA 案内、ホームページ開設、出前教育カタログなどの資料を郵送した、又、海外へは JPI との交流団体 13 ケ国、15 団体へ英語版を郵送した。出前教育として、国内の受注が 5 件あった。

□ 理事会会場の変更

理事会や総会の会場は、発足当初から JPI の会議室を利用し、その後、都内の区民会館や民間の会議室を利用していた。池田得三氏が東工大の大学院卒業生のことで、東京工業大学・百年記念館を割安室料で借用できた。更に、6 ヶ月前から予約ができるので、会員の都合に合わせて理事会や総会の日程を決めることができた。

□ 研究懇話会

研究懇話会の開催日を理事会招集日と一致させた。

「環境負荷減少と包装」	松本光次氏
「包装機械とシステム」	有光茂氏
「包装の課題」	濱口啓一氏
「最近のコンサルタント業務」	木村勝三郎氏
「PET ボトルへの DLC コーティング」	鹿毛剛氏
「食品包装とリスクマネジメント」	中山秀夫氏

□ 会報寄稿論文

「包装の課題」	濱口啓一氏
「最近のコンサルタント事情」	木村勝三郎氏
「技術コンサルタント雑感」	真多博志氏
「食品の安全性（元クリントン大統領報告書より）」	鹿毛剛氏

□ 関西支部活動及び研究会

関西支部事務所移転（平成 15 年 1 月より）

〒533-0033 大阪府東淀川区 2-8-5 PD ソリューションズ内
「食品包装の安全衛生」 宮田豊氏

・会員：32 名（本部 23 名、関西 9 名）

2003 年度(平成 15 年度)

□ 研究懇話会

「当たり前をやれば成功する事業」	石原昌具氏
「包装用フィルム製造における APS」	小山武夫氏
「食品衛生法の解説」	野田茂尅氏
「シュリンク包装システムの提案から実施まで」	塚本富陸氏
「ヒートシールの極意」	菱沼一夫氏
「韓国の包装事情」	伊藤 荘司氏

2003 年度以降、概要をホームページに公開した。

□ 関西支部活動及び研究会

本部と同様に出前教育を実施するため、検討を開始した。名称は「出前講座」としたが、初年度は検討途中となった。

2004 年度(平成 16 年度)

□ 池田得三氏が会長に就任

□ 出前教育講座

東京パックで独自の小間を設置し、出前教育（23 テーマ）を PR した。

また、JPI 月刊誌「包装技術」で毎月紹介記事を掲載している。2004 年度までに 8 件の出講依頼があり、5 件は実施済である。



出前教育講座テーマの一覧表

登録番号	出前教育テーマ	担当者
1001	包装全般にわたる問題解決のお手伝い	中山他
1002	物流問題解決のお手伝い	真多
1003	環境対応問題解決のお手伝い	飯島、松本
1004	包装と食品保持性へのお手伝い	鹿毛
1005	包装容器問題解決のお手伝い	鹿毛
1006	現場管理と改善活動へのお手伝い	池田
1007	「包装の基礎」を出前教育で如何ですか	小山 外2名
1008	包材コンバーターにおける安全衛生管理	中山
1009	包装用フィルムの基礎	小山
1010	包装とプラスチック（包装用フィルムの応用）	真多
1011	真空包装は如何ですか	有光
1012	製袋充填包装のいろいろ	有光
1013	機能性包装の現状と開発の動向について	中山
1014	包装商品量目管理と革新	菱沼
1015	“不具合”の要因の抽出と改善	菱沼
1016	ヒートシール技法の革新技術	菱沼
1017	易開封性にみられるアクティブパッケージ	中山
1018	包装設計技法	濱口
1019	トラブル「事故」未然防止手法	濱口
1020	環境会計	濱口
1021	防護包装技法の基礎と応用	中山
1022	食品包装容器の衛生法について	野田
1023	PETボトルの問題解決のお手伝い	野田

平成16年10月1日現在

□ 環境展に出展

今まで環境関係の情報・PR 活動の機会が少なく活動も低調であった。今回、日報主催の環境展が有明会場で開催される機会に“包装と環境”をテーマで5月25日～28日までQ&A 無料技術相コーナーを開設し、次年度も継続した。

□ 研究懇話会

「有事事態に対する包装・物流技術者のあり方」	桑靖彦氏
「ボケを科学する」	中山秀夫氏
「プラスチックフィルムの最適設計」	小山武夫氏
「易開封性に見られるアクティブパッケージ」	中山秀夫氏
「プラスチック容器包装廃棄物のリサイクル」	飯島林蔵氏
「包装設計技法」	濱口啓一氏

□ 会報

会報20号を（カラー版）電子ファイルとして発行し、ホームページにもアップした。

 JPCA 会報 No. 20 2004年(平成16年)12月 発行者 池田 得三	日本包装コンサルタント協会 事務局：〒356-0043 埼玉県入間郡 大井町蔵ヶ丘2-11-16 池田技術士事務所内 Phone/FAX: 049-262-3751 関西事務局： 〒533-0033 大阪市東淀川区東中島 2-8-8 新大阪ビルヂング 602号 P. Dソリューション【有】 Phone 06-6379-7852 FAX 06-6379-7854
--	---

目 次		
巻頭言 包装に習を求む	会長 池田 得三	・1・
今年一年の歩み(概要報告)		
1. 本部活動概況	総務担当 鹿毛 剛	・2・
2. 関西支部活動概況	支部事務局 塩田 利一	・・
3. 業務活動概況について	担当 有光 茂	・・
4. 出前講座の概況	担当 中山 秀夫	・・
寄稿		
◇ 科学／技術と論理	菱沼 一夫	・・
◇ 包装材料の基礎 (No. 1)	小山 武夫	・・
◇ 韓国の包装事情	伊藤 荘司	・・
◇ シンガポール雑感	関西支部 塩田 利一	・・
	宮田 豊	・・
◇ ボケを科学する	中山 秀夫	・・
会員自己紹介		
◇ 佐本 光弘 氏		・・
◇ 増尾 英明 氏 (人会に際してのご挨拶)		・・
編集後記	中山 秀夫	・・

1/23

会報 20 号

□ 会報寄稿論文；

「科学／技術と論理」	菱沼一夫氏
「包装材料の基礎 (No. 1)」	小山武夫氏
「韓国の包装事情」	伊藤荘司氏
「シンガポール雑感」	塩田利一氏・宮田豊氏
「ボケを科学する」	中山秀夫氏

□ 関西支部活動及び研究会

- ・ 関西支部出前教育講座：包装タイムズへ記事掲載
- ・ 海外研修：関西支部シンガポールへ（2004年9月29日～10月3日）

概略は、「シンガポール」として会報 20 号の寄稿に纏められている。包装という共通の舞台で海外の方々と意見交換ができたことは大きな収穫であった。



関西支部、シンガポール包装協会訪問

2005 年度(平成 17 年度)

□ 出前教育講座登録テーマ

1023 : 「ユニバーサルデザインと包装」	住本充弘氏
1024 : 「包装機械とシステム (包装の基礎)」	有光茂氏
1025 : 「食品包装の安全性について」	増尾英明氏
1026 : 「容器包装製造工場の GMP 管理」	増尾英明氏
1027 : 「容リ法とプラ容器廃棄物のリサイクル」	飯島林蔵氏
1028 : 「RFID の導入支援」	菱沼一夫氏
・ 出前教育講座講師派遣実績 : 4 件	

□ 研究懇話会

「包装商品量目管理と革新」	菱沼一夫氏
「環境会計」	濱口啓一氏
「食品容器の安全性」	増尾英明氏
「IC タグの活用と今後の展開」	住本充弘氏
「真空包装」	有光茂氏
「企業の利益の向上とコンサルタントの役割」	池田得三氏

□ 会報寄稿論文

「interpack 2005 に観る包装躍進国の出展動向」	菱沼一夫氏
「IC タグの活用と今後の展開」	住本充弘氏

□ 関西支部活動及び研究会

- ・ A-PACK2005 大阪で無料相談コーナー開設した。相談件数は 18 件あった。
- ・ 出前講座のパンフレットをわかりやすくするため改訂した。

・近畿包装研究会

近畿包装研究会は、兵庫県立工業技術センターの事務局内にあり、包装・物流関連企業 38 社からなる団体で見学会や講演会の事業を行っている。

「プラスチック及び紙器の包装」 真多博志氏

2006 年度(平成 18 年度)

□ 出前教育講座登録テーマ

1029 : 「容器リサイクル法の改正と包装業界の課題」	増尾英明氏
1030 : 「企業の利益向上とコンサルタントの役割」	池田得三氏
1031 : 「輸送包装技術の基礎知識」	根本憲一氏
1032 : 「ISO, 品質と環境どちらか先か」	亀岡孝三郎氏
1033 : 「コスト削減の品質 ISO」	亀岡孝三郎氏
1034 : 「顧客の評価を高める環境 ISO」	亀岡孝三郎氏
1035 : 「命を守る労働安全衛生マネジメントシステム」	亀岡孝三郎氏
・ 出前教育講座講師派遣実績 : 4 件	

□ 研究懇話会

「日本のコンバーティングの生い立ちと歩み」	松本光次氏
「中国の広東省の包装事情と中国製紙動向」	石川光男氏
「製袋充填包装のいろいろ」	有光茂氏
「超感度迅速酸素測定 (APIMS)」	鹿毛剛氏
「輸送包装技術の基礎知識」	根本憲一氏
「顧客を感心させるプレゼンテーション作り・パソコン術」	菱沼一夫氏

□ 風船爆弾とガスバリア性

松本光次氏の研究懇話会から一部引用すると、風船爆弾の構成は、気球の直径 10m、15kg の焼夷弾 4 発を搭載し 70kg バラストを持ち、飛翔高度 10,000～12,000m、飛翔速度 150～300km/H、発射期間は 1944 年 11 月から 1945 年 4 月まで合計 9,300 発が発射され、その飛翔能力は 70 時間で、風船爆弾の米国到達率は 3.8%であった。

風船爆弾の原材料構成は、日本古来の和紙にコンニャクマンナン被膜（ガスバリア性に優れている）を構成したものを扱い、上半球を 4 層貼り、下半球を 3 層貼り合せ加工し、耐寒性向上と強度保持を目的としたグリセリンその他処理を施した。飛翔には気球内の水素ガスを使用した。

□ 会報寄稿論文

「PACK EXPO International 2006 に観る最近アメリカ包装界の動向」

ーWal-Mart の環境維持プログラム：“Scorecard”が アメリカ（世界）の
包装界を震撼しているー 菱沼一夫氏
「食品容器包装器具の安全性に係わる最近の話題」 増尾英明氏

□ 東京パック 2006

東京パック 2006 は、10 月 5 日～9 日まで開催された。
包装 4 団体（日本包装管理士会、日本包装専士会、技術士包装物流会、当会）による記念セミナーについて当会理事の増尾英明氏が「食品容器包装・器具の安全性に係る最近の話題」を講演した。

関西支部との交流会を実施した。

□ 関西支部活動及び研究会

・ 出前講座の展開

2003 年から活動を開始し、各方面に PR してきたが受注がなかった。企業の要求に応じて、講義内容を詳しく解説する内容のパンフレットに改定した。新パンフレット各会員の関係先に持参し、営業活動をした。

・ 講演会

日報 「2006 包装教育講座」 塩田利一氏
近畿包装研究会 「プラスチック及び紙器の包装」 真多博志氏
「包装と段ボール」 山崎潔氏

出前講義のご案内

改正容器包装リサイクル法をはじめ多くの環境関連法は、包装産業界に大きな影響を与えられた事になります。
当関西支部はこの課題に取り組みながら、包装改善・コスト低減・環境対応・社員教育などの問題解決の糸口を見出すお手伝いを行っています。
出前講義は、人数・時間あるいはテーマの多少にかかわらず、皆様のご要望にお応えして指定場所へ講師をお送りし、予めお打ち合わせさせて頂いた内容に即して新しい時代に相応しいお話をさせて頂く企画です。
この機会に是非、御社社員教育などの一つに加えて頂ければ幸いです。
是非ご検討の程を賜りますよう、ご案内申し上げます。

配	
1 日時・場所	お打ち合わせ
2 講義内容	依頼の上決定します
3 講義時間	基本講義時間は2時間 追加1時間単位
4 講義料金	4万円(2時間) 車運についてはご相談ください 交通費(実費)もご負担をお願いいたします。
5 お問い合わせ及び申し込みは、講師又は下記関西支部までお願いいたします。	


日本包装コンサルタント協会 関西支部
 〒675-1105 兵庫県加古郡稲美町加古2846-1 西Pソリューションズ内
 電話 079-492-6180 FAX 079-492-6184 E-mail:jpac@pdr-net.co.jp

2007 年度(平成 19 年度)

□ 出前教育講座登録テーマ

1036：「環境適合包装」	大須賀弘氏
1037：「環境適合設計」	大須賀弘氏
1038：「食品安全マネジメントシステム」	大須賀弘氏
1039：「プラスチック材料と軟包装袋の設計」	大須賀弘氏

・ 出前教育講座講師派遣実績：5 件

□ 研究懇話会

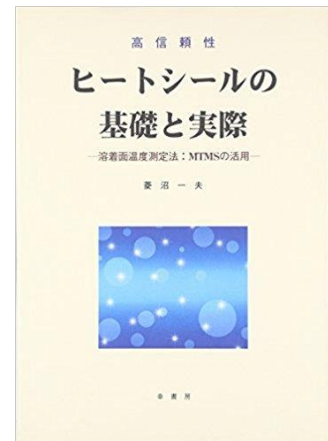
「IT 活用度・診断・支援ツール」	小山武夫氏
「ISO, 品質と環境どちらか先か？」	亀岡孝三郎氏

「環境適合包装」	大須賀弘氏
「南米の包装・世界の包装動向」	住本充弘氏
「南米の乳製品包装事情」	鹿毛剛氏
「ヒートシール解説書出版記念講演」	菱沼一夫氏

□ 菱沼一夫氏の「ヒートシールの基礎と実際」出版記念講演会開催

研究懇話会には会員外の出席を呼び掛けているが通常は0-2名程度である。

2月7日に菱沼氏の出版記念講演会として研究懇話会を開催した、会員外へ広くPRをしたので、会員外から11名を含め26人の参加で盛況であった。なお、講演会終了後、講師を囲んで懇親会を開催した。



□ 会報寄稿論文

「大気圧イオン化質量分析計を用いた迅速気体透過度測定」	鹿毛剛氏
「高信頼性ヒートシールの基礎と実際」	
—溶着面温度の測定法“MTMS”の活用—	菱沼一夫氏
「企業防衛のために不可欠な ISMS」	菱沼一夫氏
—紙器段ボール企業の情報事故や機密漏洩の事例とその管理策—	亀岡孝三郎氏

□ 中国冷凍ギョーザ事件での情報提供

ギョーザ包装袋の穴あきに関連して、菱沼一夫氏が兵庫県警に穴あきの原因をヒートシールの観点から情報提供した。読売新聞、テレビ朝日などを通じ、電話で取材を受けたので、菱沼氏、住本氏、鹿毛氏等で対応した。その他、共同通信、朝日新聞から取材申入れ有り（留守電）。メディアの対応は受身としたが、政府の機関に対して正しい情報を提供することにした。野田氏を通じて、厚生労働省外郭団体の日本食品衛生協会の高谷常務理事（元・厚生省課長）に対し、包装袋のピンホール、袋を通じての臭味、薬品の移行、印刷インキなどについて情報を提供した。

□ 関西支部活動及び研究会

- ・ 関西支部の事務所移転：〒675-1105 兵庫県加古郡稲美町 2846-1
(株)P.Dソリューション内
- ・ A-PACK で無料相談コーナー：4月18日～21日にインテックス大阪で開催された。
4件について最終的に受注につながらなかった。
- ・ 近畿包装研究会
「プラスチック及び紙器の包装」 真多博志氏



2008 年度(平成 20 年度)

- 野田茂尅氏が会長に就任

- 出前教育講座登録テーマ

1040 : 「緩衝包装の基礎知識 (緩衝包装設計)」	山崎潔氏
1041 : 「包装と段ボール (段ボール包装設計)」	山崎潔氏
1042 : 「プラスチック容器包装の臭気対策」	鹿毛剛氏
1043 : 「包装の役割」	塩田利一氏
1044 : 「防錆対策を目的とした防湿包装技法」	中山秀夫氏

・ 出前教育講座講師派遣実績 : 1 件

- 研究懇話会

「賞味期限と消費期限」	増尾英明氏
「包装容器の臭気と香り対策」	鹿毛剛氏
「我が国のエネルギーの現状とバイオマスへの期待」	鹿毛剛氏
「インターパック 2008、変化し始めた包装ビジネス」	住本充弘氏
「清涼飲料の PET ボトルとキャップ」	杉崎喬氏
「食の安全・安心を支える容器包装の最新事情」	増尾英明氏

・ 2003 年からの研究懇話会の資料をまとめ包装 4 団体へ PR した。

- 会報寄稿論文

「インターパック 2008 の動向」	住本充弘氏
「強化された労働安全衛生マネジメントシステム」	亀岡孝三郎氏
「紙製容器包装の安全性について(第一報)」	増尾英明氏

- 東京パック 2008

10 月 7 日～11 日まで東京ビッグサイトにて開催された。包装 4 団体（日本包装管理士会、日本包装専士会、技術士包装物流会、当会）は、各団体固有の展示を行うと共に、4 団体として相談コーナーを設け、来場者の包装及び物流に関する相談を受け付けた。

包装 4 団体の共通展示パネル（写真 1）を新たに作成した。相談コーナー（写真 2）は、日本包装専士会、技術士包装物流会、日本包装コンサルタント協会が担当し、毎日約 10 件前後で、5 日間で 54 件であった。



写真 1 共通展示パネル



写真 2. 相談コーナー

当協会の PR については、当協会の紹介及び出前講座の他に英文の展示パネルを作成・展示。紙ベースの資料として、和文資料の他に英文資料も準備した。 関西支部から、塩田支部長、山崎事務局長、太田茂氏の 3 氏が上京された。「食の安心・安全を支える容器包装の最新情報」という演題で当協会理事の増尾英明氏が講演した。今回は JPI が主催であり、幅広く PR できた。講演内容の良さもあって、定員 200 名を超え立見も出て盛況であった（写真 4）。



写真 3 本部・関西支部合同会議



写真 4 増尾英明氏の講演

□ 四国生産性本部へ継続的に講師派遣

四国生産性本部は、会員数 650 の組織からなり、研究会事業の一環として、企業会計、マーケティング、生産現場改善等の他に、包装・物流を取り上げています。 四国生産性本部へは本部、関西支部とも多くの講師を派遣しています。

当協会は根本憲一氏が「物流の基礎」を皮切りに、2010 年に中山秀夫氏が「包装の役割と機能」、山崎潔氏が「包装とダンボール」、2012 年に鹿毛剛氏が「製造段階や物流段階での包装食品の香味異常」、2013 年に寺岸義春氏が「輸送包装の進め方」、2014 年に平田勝保氏が「包装と物流システム」、2015 年に小坂正実氏が「新しい材質や形状と段ボール設計の考え方」、2017 年に住本充弘氏が「包装産業の最新動向とこれからの課

題」、2018 年に小山武夫氏が「包装の基礎」で、継続的に講師を派遣しています。

□ 関西支部活動及び研究会

□ 関西支部長に塩田利一氏が就任

- ・研究会
 - 「インターパック 2008 視察と報告」 太田茂氏
 - 「包装 50 年と趣味」 塩田利一氏
 - 「ベトナム（松下、他日系企業訪問）視察と報告」 太田茂氏
- ・講演会
 - 近畿包装研究会 「包装と段ボール」 山崎潔氏

2009 年度(平成 21 年度)

□ 出前教育講座登録テーマ

1045：「輸送包装の進め方」 寺岸義春氏

1046：「液体紙容器」 牧野隆男氏

・出前教育講座講師派遣実績：4 件

□ 無機製品包装のコンサルティング

T 社に対して、1 月から 10 月まで 2 人で技術指導にあたった。

□ 研究懇話会

「容器包装リサイクルの最新事情」 飯島林蔵氏

「企業再生について」 小山武夫氏

「中国の生産管理における 5S 活動について」 池田得三氏

「Scan Pack 2009 及び北欧企業視察レポート」 住本充弘氏

「容器包装アーカイブス」 野田茂尅氏

「包装と機能性フィルム」 中山秀夫氏

□ ㈱日報主催の包装容器アカデミー講師派遣

本年度は包装・容器と環境の入門編で 9 月 28 日に東京都中小企業振興公社で開催された。講師陣は次の通りである、参加者 50 人以上で盛会であった。次年度にも講師派遣が決まった。

「包装と機能性フィルム」 中山秀夫氏

「PET ボトルの誕生からこれまで」 野田茂尅氏

「包装機械とシステム」	有光茂氏
「容器包装リサイクルとは」	飯島林蔵氏

□ **会報寄稿論文**

「企業再生について」	小山武夫氏
「小企業に役立つ品質 ISO」	亀岡孝三郎氏

□ **関西支部活動及び研究会**

「液体紙容器（製品設計・製造技術）」	牧野隆男氏
「輸送包装の進め方」	寺岸義春氏
「包装とプラスチック」	真多博志氏
「ISO の現状と規格の活用方法」	亀岡孝三郎氏
「包装・梱包形状の変化に見る物流問題の展望」	太田茂氏
近畿包装研究会 「包装と段ボール」	山崎潔氏
A—Pack2009 インテックス大阪 技術相談 7 件	

2010 年度(平成 22 年度)

□ **出前教育講座登録テーマ**

1047：「段ボールによる包装設計」	井上伸也氏
1048：「段ボールのコストダウン手法」	井上伸也氏
1049：「段ボールの知識」	井上伸也氏
1050：「包装時における開発のチャンス」	大森弘一郎氏
1051：「身近で判る包装における工夫」	大森弘一郎氏
1052：「環境問題の中での包装の長期方向」	大森弘一郎氏
1053：「五大汎用プラスチックの基本物性概論」	杉崎喬氏
1054：「プラスチックの成形加工方法概論」	杉崎喬氏
1055：「プラスチック容器の評価項目と方法」	杉崎喬氏
・出前教育講座講師派遣実績：2 件	

□ **研究懇話会**

「包装機械とシステム」	有光茂氏
「段ボール包装の現状」	井上伸也氏
「仕事と遊びの混合物から一私の開発手法」	大森弘一郎氏
「容器包装に関する世界主要国家の法規制（ポジティブリスト）」	増尾英明氏
「包装開発における知的財産制度の活用」	白倉昌氏

□ ㈱日報主催の包装容器アカデミー

昨年度に引き続き、4月27日、7月16日、11月18日に講師を派遣した。

「世界の包装トレンド最前線 2010」	住本充弘氏
「低炭素及び環境対応包装設計」	大須賀弘氏
「包装におけるカーボンフットプリントの状況とカーボンフットプリントの取組」	中山秀夫氏
「包装の役割と機能」	中山秀夫氏
「軟包装（フィルム）と最前線」	小山武夫氏
「輸送・工業包装と最新事例」	根本憲一氏
「容器包装リサイクル法のしくみと課題」	飯島林蔵氏

□ 会報寄稿論文

「北欧及び米国グローバルパウチフォーラムから包装の流れを見る」	住本充弘氏
「顧客評価を高める環境 ISO」	亀岡孝三郎氏

□ 関西支部活動及び研究会

□ 塩田利一支部長退会につき、新支部長に太田茂氏就任（10月）

・研究会、講演会

「これからの包装産業はどのように展開するのか」	塩田利一氏
「韓国包装事情」	寺岸義春氏
「輸送包装試験の変遷」	野上良亮氏

□ 関西包装コンサルティングの歴史

会報 26 号より当協会関西支部に関するところを抜粋した。

関西地区の包装コンサルティングの歴史を概説し、当協会関西支部の発足とその後の経過をまとめている。1986 年に有光茂氏・脇谷慶之氏・大西國男氏らにより日本包装コンサルタント協会の支部活動が始まった。当時、事務局として会運営のお世話をいただいた(社)日本包装技術協会関西支部立川了一氏の支援は大きかった。コンサル業務は、1988 年、北陸 A 印刷紙器の事業総合戦略策定に係る指導を皮切りに、山口県 T 社、奈良県 F 社などの出前講座などの実績を積み上げていった。

現在では、毎年恒例となっている近畿包装研究会サマーセミナーへの講師派遣のほか、㈱日報が主催する A-PACK での技術相談窓口開設や、随時包装・物流関連企業への出前講義、技術指導などを実施している。

日本包装コンサルタント協会関西支部会員として、これまでに在席された方々は当初の 3 名の他、富賀見二久氏、大島和之氏、宮内司氏、永田弘利氏、田辺幹夫氏、松永正秀氏、花岡昭寿氏、村山涼二氏、上野敦氏、本石靖夫氏、江口康哉氏などそれぞれの業界で指導的役割を果たしてこられた皆さんでした。現在は、真多博志氏、塩田利一氏、宮田豊氏、太田茂氏、牧野隆男氏、山崎潔氏、寺岸義春氏、亀岡孝三郎氏、野上良亮氏

が活躍された。

2011 年度(平成 23 年度)

□ 出前教育講座登録テーマ

- | | |
|---------------------------|-------|
| 1056 : 「包装失くして物流なし搬送を考える」 | 田磨豊明氏 |
| 1057 : 「食品の包装機械とその包装形態」 | 乾博信氏 |
| 1058 : 「包装ラインと最適な機械化」 | 野上良亮氏 |
- ・ 出前教育講座講師派遣実績 : 4 件 (1 件は 10 回シリーズ)

□ 長期の講師派遣

JPI の紹介で、X 社に講師を 2 名派遣した。タイトルは「容器包装に関する規制・法律、環境問題解説」で、月に 1 回のペースで、10 回行った。

□ 研究懇話会

- | | |
|---------------------------------------|-------|
| 「得意技のインターネットを利用したグローバルコンサルティングの方法と実際」 | 菱沼一夫氏 |
| 「日本のエネルギーの現状と今後の対応」 | 鹿毛剛氏 |
| 「清涼飲料 PET ボトルの最新状況」 | 杉崎喬氏 |
| 「加熱傾斜によるヒートシール強さの発現遷移」 | 菱沼一夫氏 |
| 「インターパック 2011」 | 住本充弘氏 |
| 「包装環境問題理解のためのカリキュラム」 | 大須賀弘氏 |
| 「何故、福島第一原発は暴走したのかーその原因の究明ー」 | 菱沼一夫氏 |

□ 会報寄稿論文

- | | |
|--|---------|
| 「清涼飲料用 PET ボトルの最新状況」 | 杉崎喬氏 |
| 「“不幸中の不幸”：福島第 1 原発事故のコンプライアンスー倫理的正義の遵守」の検証と自己反省ー | 菱沼一夫氏 |
| 「ISO 規格におけるカタカナ言葉の活用法」 | 亀岡 孝三郎氏 |

□ 関西支部活動及び研究会

□ 関西支部長に太田茂氏が就任

- ・ ホームページのトップページに「関西セミナー案内」の欄を設定した。
- ・ A-PACK (5 月 18 日～21 日) で包装技術相談コーナーを開設した。来訪者 38 名。
- ・ 近畿包装研究会 「包装と段ボール」

山崎潔氏



□ 関西支部包装第 1 期技術セミナーの開催

今まで、出前講座登録や関西支部内で会員内のスピーチをまとめ、技術セミナーとしてカリキュラムを作った。受講者からクライアントのニーズを吸い上げ個々の企業に必要なコンサルティングを行うべく、待ちの姿勢から売りの姿勢へ変更した。

定例セミナーを年に4回実施した。会場は神戸市勤労会館を使用した。講師は会員8名、外部講師2名。講師との意見交換にも時間を割いた。

第1回	「段ボール包装と物流」	山崎潔氏
	「フィルムと包装」	山崎潔氏
	「緩衝材と緩衝包装」	寺岸義春氏
第2回	「インターパック 2011」	太田茂氏
	「包装材料・容器関係」	山崎潔氏
第3回	「包装ラインと包装機械」	野上良亮氏
	「工場内マテハンライン」	田麿豊明氏
第4回	「包装ラインの管理」	牧野隆男氏
	「品質・環境 ISO」	亀岡孝三郎氏

2012 年度(平成 24 年度)

- 鹿毛剛氏が会長に就任



- 出前教育講座登録テーマ等

- 1059 : 「包装分野における知的財産の活用」 白倉昌氏
- 1060 : 「プラスチック容器における DLC コーティング 技術の応用、開発動向」 白倉昌氏
- 1061 : 「梱包方法改善による梱包材のコストダウン」 平田勝保氏
- 1062 : 「商品設計と包装材料」 今田克己氏
- 1063 : 「包装と物流システムをつなぐ企画・設計・施工」 中村義孝氏
- ・ 出前教育講座講師派遣実績 : 2 件
- ・ マレーシア企業 (カートン輸出業者) へコンサルティング

- 研究懇話会

- 「食品包装に再生材料を使用する場合の法規制に関する政府原案」 増尾英明氏
- 「印刷業界の動向と経営環境」 小山武夫氏
- 「我々が畏敬する太陽の素顔」 大森弘一郎氏
- 「Scanpack2012 とスウェーデン企業のパッケージビジネス戦略」 住本充弘氏
- 「パソコンの使い方」 菱沼一夫氏

□ 会報寄稿論文

「東日本大震災について包装はどの様に係わったか？」

ー今までの我々の包装製品の開発がどう貢献したかの検証と改善策ー鹿毛剛氏

「不幸中の不幸 福島第1原発暴走事故の原因考察」

ー原子力発電の非安全性の検討ー

菱沼一夫氏

「Scanpack2012 とスウェーデン企業のパッケージビジネス戦略」 住本充弘氏

「国際標準・環境 ISO の文書化事例」

亀岡孝三郎氏

□ 東京パック 2012

(1) 東日本大震災とパッケージ

2011 年 3 月 11 日に東日本大震災が発生した。今回の包装 4 団体の統一テーマは「東日本大震災とパッケージ」であり、各団体はサブテーマを各々実行した。

当会は、「東日本大震災に対して包装がどのように係わったか？」をサブテーマにした。日本包装管理士会の協力を得て、実際に被災された東北支部の方々にアンケートを実施した。①役に立った包装、②困った包装、③あれば良かった包装について展示を行った。また、トピックスセミナーとして各団体は講演した。

詳細は会報寄稿論文 28 号に記載している。



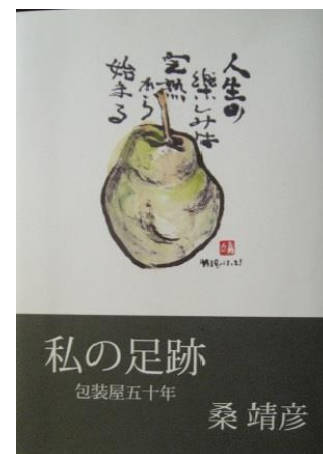
役に立った包装などの展示



講演会

□ 初代会長 桑靖彦氏 自叙伝「私の足跡 包装屋 50 年」

1937 年藤森工業入社以降、包装人としての内容が記載されている。具体的には、入社当時の工業包装・消費者包装、その後の軍需包装、海外からの包装技術導入、世界包装機構（WPO）の設立、ブラジルでの世界包装会議での講演、定年後の名古屋の会社での仕事、日本包装コンサルタントの設立等である。



□ 関西支部活動及び研究会

- ・包装展 Pro-Pack タイの見学と報告 太田茂氏、山崎潔氏
- ・近畿包装研究会 「包装と段ボール」 山崎潔氏

□ 関西支部第 2 期包装技術セミナーの開催

- | | | |
|-------|----------------------------------|-------|
| 第 1 回 | 「段ボールについて」 | 山崎潔氏 |
| 第 2 回 | 「包装機械について」 | 野上良亮氏 |
| | 「マテハン機器について」 | 田摩豊明氏 |
| 第 3 回 | 「紙器と液体紙容器について」 | 牧野隆男氏 |
| | 「食品充填包装機について」 | 乾博信氏 |
| 第 4 回 | 工場見学会（オークラ輸送機、神戸大予輸送包装研究室、六甲バター） | |
| 第 5 回 | 「包装設計技報について」 | 寺岸義春氏 |
| | 「パックエキスポ紹介」 | 太田茂氏 |



協会会員、講師と受講生のディスカッション

2013 年度(平成 25 年度)

□ 出前教育講座登録テーマ

- | | |
|---------------------------------|--------|
| 1064 : 「物流における包装の基礎知識と対応する JIS」 | 伊名田利秀氏 |
| 1065 : 「輸送包装における包装改善と用途のキーポイント」 | 伊名田利秀氏 |
| 1066 : 「機能性段ボールの技術と用途・使用例」 | 伊名田利秀氏 |
| 1067 : 「次世代の包装開発の考え方の支援」 | 住本充弘氏 |
| 1068 : 「売れる食品のための包装技術」 | 野田治郎氏 |
| 1069 : 「食品包装の品質保持技術」 | 野田治郎氏 |
| 1070 : 「特許資料 (IPDL) から新包装を開発する」 | 大森弘一郎氏 |
- ・ 出前教育講座講師派遣実績 : 10 件 (延べ 18 課題)

□ 研究懇話会

- | | |
|---------------------------------|--------|
| 「IPDL をどんな時に使うのか」 | 大森弘一郎氏 |
| 「2020 年に実現が期待される包装新技術の展望」 | 住本充弘氏 |
| 「出版業界の現状と課題」 | 小山武夫氏 |
| 「食品メーカーの立場からの包装設計と開発事例、2 回」 | 野田治郎氏 |
| 「ビールのプラスチック通い箱 (P 箱) の生い立ちとその後」 | 鹿毛剛氏 |

□ 会報寄稿論文

- | | |
|--------------------------|--------|
| 「出版業の現状と課題」 | 小山武夫氏 |
| 「IDPL 発想法の活用」 | 大森弘一郎氏 |
| 「品質 ISO の認証レベルと活用レベルの考察」 | 亀岡孝三郎氏 |

□ Pack Show2013

東京パックが開催されない年に Pack Show として 2 年に 1 回開催されます。本年度は、10 月 1 日～3 日まで 東京都立産業貿易センターにて開催されました。

JPI からテクニカルセミナー講師の依頼を受け、12 テーマを提案し、次の 7 テーマが決まった。

- | | |
|---------------------------------|-------|
| 「軟包装の設計手法」 | 大須賀弘氏 |
| 「アクセシブルデザインを考慮した包装設計」 | 住本充弘氏 |
| 「段ボール包装の設計と最近動向」 | 井上伸也氏 |
| 「包装商品の今後のトレンド (食品・飲料・医薬品・化粧品等)」 | 住本充弘氏 |
| 「機能性包装技術 (防湿、ガス遮断、無菌包装等) の最新動向」 | 中山秀夫氏 |
| 「食の安心安全を支える容器包装の最新情報」 | 増尾英明氏 |
| 「包装容器の香味異常対策」 | 鹿毛剛氏 |

□ 関西支部活動及び研究会

□ 関西支部長に野上良亮氏が就任

- ・「タイ・カンボジア海外研修」

平田勝保氏、山崎潔氏、野上良亮氏



□ 関西支部 第3期包装技術セミナーの開催

- | | | |
|-----|----------------------------|-------------|
| 第1回 | 「ケーススタディ、包装概論」 | 今田克己氏 |
| | 「ケーススタディ、商品開発・品質改善・原価低減」 | 今田克己氏 |
| 第2回 | 「製造業における包装設計の進め方」 | 今田克己氏 |
| | 「段ボールの設計技報及び品質管理」 | 山崎潔氏 |
| | 「包装機械全般」 | 野上良亮氏、中村義孝氏 |
| 第3回 | 「食品包装形態と機械」 | 乾博信氏 |
| | 「紙器・印刷・液体紙容器」 | 牧野隆男氏 |
| | 「輸送機器及びその周辺機器」 | 太田茂氏 |
| 第4回 | 工場見学会（レンゴ、沢井製薬） | |
| 第5回 | 「輸送緩衝包装設計と振動・落下・圧縮等包装試験適正」 | 寺岸義春氏 |
| | 「ジャパンパック 2013 視察報告」 | 太田茂氏、平田勝保氏 |

2014 年度(平成 26 年度)

□ 出前教育講座登録テーマ

- 1071：「世界の気象環境と金属製品の腐食防止のための包装」 佐藤幸弘氏
・出前教育講座講師派遣実績：5 件

□ 研究懇話会

- | | |
|---------------------------|-------|
| 「インターパック 2014」 | 住本充弘氏 |
| 「ISO/TC122 Packaging の活動」 | 白倉昌氏 |
| 「容リ法の最近の動向」 | 飯島林蔵氏 |
| 「PET ボトル DLC の内面処理技術」 | 鹿毛剛氏 |
| 「容器包装の安全性問題に関する最近の話題」 | 増尾英明氏 |

□ 東京パック 2014

(1) 集中展示企画

2013 年日本包装技術協会は 50 周年を迎えた。東京パック 2014 は 10 月 7 日～10 日まで開催され、集中展示企画として、「包装の過去そして未来」という共通テーマをも

とに各業界についてレビューした。当会は飲料業界を分担した。半世紀前の牛乳、清涼飲料、酒類等の各種飲料の包装はガラスびん主体であったが、紙容器や金属缶が登場した。スーパーの成長や自動販売機の増加で二つの容器が飛躍的に伸びた。1980年代になると、PET ボトルが登場し、清涼飲料分野では 70%を超えている。

詳細は会報寄稿論文 30 号に記載している。



集中展示企画（包装の過去そして未来）



テクニカルセミナー

(2) テクニカルセミナー

JPI からの要請に基づき、Pack Syow2013 とほぼ同じ講師陣であった。

「軟包装の設計手法」	大須賀弘氏
「包装容器の香味異常対策」	鹿毛剛氏
「段ボール包装の設計と最近動向」	井上伸也氏
「食品包装と品質保持の基礎知識」	野田治郎氏
「容器包装リサイクル制度とその課題」	飯島林蔵氏
「食の安心安全を支える容器包装の最新情報」	増尾英明氏
「アクセシブルデザインを考慮した包装設計」	住本充弘氏

□ 会報寄稿論文

「interpack 2014 と現状の包装動向考察」	住本充弘氏
「包装の過去そして未来ー各種飲料の容器の変遷ー」	鹿毛剛氏
「品質 ISO、全面的改訂の概要とその準備対策」	亀岡孝三郎氏

□ 関西支部活動及び研究会

- ・「インターパック視察」 太田茂氏、山崎潔氏、野上良亮氏
- ・近畿包装研究会 「包装と段ボール」 山崎潔氏

□ **関西支部 第4期包装技術セミナーの開催**（講師は会員のみ紹介）

- | | | |
|-----|----------------------------|--------|
| 第1回 | 「ケーススタディ、包装概論」 | 今田克己氏、 |
| | 「ケーススタディ」 | 今田克己氏 |
| 第2回 | 「段ボールの設計技報及び品質管理」 | 山崎潔氏 |
| | 「包装と物流システムをつなぐ」 | 平田勝保氏 |
| | 「包装の安全、環境関連法規容リ法と環境配慮設計」 | 住本充弘氏 |
| 第3回 | 「輸送緩衝包装設計と振動・落下・圧縮等包装試験適正」 | 寺岸義春氏 |
| 第4回 | 工場見学会（ライオン、日本山村硝子） | |
| 第5回 | 「輸出包装と世界の腐食環境と包装技法」 | 佐藤幸弘氏 |
| | 「紙器・印刷・液体紙容器」 | 牧野隆男氏 |

日本山村硝子(株)播磨工場見学



2015 年度(平成 27 年度)

□ **出前教育講座登録テーマ**

- | | |
|----------------------------------|--------|
| 1072：「飲料製造時の微生物制御（微生物事故の根絶にむけて）」 | 松田晃一氏 |
| 1073：「透明蒸着フィルム」 | 土屋博隆氏 |
| 1074：「電子レンジ食品と容器包装・食器（基礎）」 | 井上洋一郎氏 |
| ・前教育講座講師派遣実績：8 件 | |

□ **研究懇話会**

- | | |
|------------------------------|--------|
| 「高分子材料物性の測定と活用 1・2 部」 | 杉崎喬氏 |
| 「新ポリエステル樹脂の紹介」 | 井上洋一郎氏 |
| 「PET ボトルの B to B」 | 松田晃一氏 |
| 「高分子の基礎」 | 小山武夫氏 |
| 「Win. 10 を自動でインストールし使っている感想」 | 菱沼一夫氏 |

□ **会報寄稿論文**

- | | |
|------------------|------|
| 「暮らしの包装商品展 2015」 | 鹿毛剛氏 |
|------------------|------|

「ジャパンパック 2015 を見学して」 塚本富陸氏
「韓国研修旅行報告書」 伊藤荘司氏

□ 韓国研修旅行

伊藤荘司氏は、韓国の企業を長年指導してきた実績があり知人も多い。5月11日～13日、伊藤氏の紹介でソウルを訪問し、テバンバテック社のフィルム、トレイ成形工場を見学しました。併せて、KINTEX 韓国食品包装展の見学を行った。
参加者8名。詳細は、会報31号寄稿論文を参照されたい。

KINTEX 韓国食品包装展示会場前



□ 関西支部活動及び研究会

「国際包装展台北パック視察」 太田茂氏、野上良亮氏、平田勝保氏

□ 関西支部 第5期包装技術セミナーの開催

- | | | |
|-----|--|--------|
| 第1回 | 「包装概論」 | 今田克己氏、 |
| | 「ケーススタディについて」 | 今田克己氏 |
| | 「ケーススタディ・市場調査・ディスカッション」 | 今田克己氏 |
| 第2回 | 「紙器・印刷・液体紙容器」 | 牧野隆男氏 |
| | 「包装の安全及び環境関連法規容リ法と環境配慮設計」 | 住本充弘氏 |
| 第3回 | 「段ボールの設計技報及び品質管理」 | 山崎潔氏 |
| | 「包装機械全般と最新技術」 | 今田克己氏 |
| 第4回 | 見学会（モノタロウ・尼崎ディストリビューションセンター、大阪 ATC
グリーンエコー） | |
| 第5回 | 「輸送緩衝包装設計と振動・落下・圧縮等包装適正」 | 寺岸義春氏 |

2016 度(平成 28 度)

- 住本充弘氏が会長に就任



- 出前教育講座登録テーマ

1075 : 「包装貨物の評価試験方法」 高田利夫氏
1076 : 「段ボールの基礎知識」 小坂正実氏
1077 : 「包装作業の改善」 小坂正実氏
1078 : 「包装設計と輸送条件」 小坂正実氏
1079 : 「軟包装材の基礎」 石川始氏

・ 出前教育講座講師派遣実績 : 7 件

- 研究懇話会

「透明蒸着フィルムについて」

土屋博隆氏

「包装コンサルタントのためのヒートシール技法の

誤認」「間違い」「誤魔化し」の確認」、2 回

菱沼一夫氏

「大気圧プラズマを利用した機能性薄膜の開発状況」

白倉昌氏

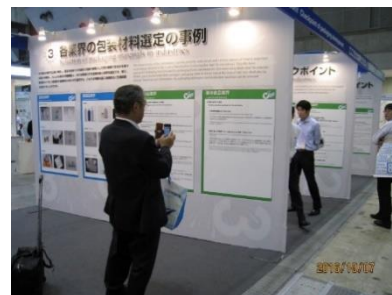
「伸びるデジタル印刷と包装分野への参入」

住本 充弘氏

- 東京パック 2016

(1) 集中展示企画

集中展示企画では、「ここだけは押さえない！包装開発のポイント」という包装 4 団体の統一テーマのもとに、当会は「液体食品」を分担した。液体食品は清涼飲料、酒類、牛乳・乳飲料、調味料などに分類される中で、調味料の鍋つゆ製品のパウチに焦点をあて、5 つの包装開発のチェックポイントで分かり易く解説した。詳細は会報寄稿論文 32 号に記載している。



包装開発のポイントの展示

(2) テクニカルセミナー

「軟包装の設計手法」

大須賀弘氏

「包装容器の香味異常対策」

鹿毛剛氏

「段ボール包装の設計と最近動向」

井上伸也氏

「食品包装と品質保持の基礎知識」

野田治郎氏

「食の安心安全を支える容器包装の最新情報」

増尾英明氏

「User-Friendly Package の実例と今後の対応」

住本充弘氏

□ 会報寄稿論文

- 「ここだけは押さえない！包装開発のポイントー液体食品ー」 鹿毛剛氏
「プロダクト・バイ・プロセス・クレームについて」 土屋博隆氏
「第1回ドリンクジャパンでの講演概要と K2016 出張レポート」 松田晃一氏

□ 関西支部活動及び研究会

- 近畿包装研究会「製品包装開発」 今田克己氏
「包装と段ボール」 小坂正実氏

□ 関西支部 第6期包装技術セミナーの開催

- 第1回 「包装概論」 今田克己氏、
「ケーススタディ」 今田克己氏
「ケーススタディ・容器包装改良品分析と改善」 今田克己氏
第2回 「プラスチックリジッド容器」 今田克己氏
「紙器・印刷・液体紙容器」 牧野隆男氏
「包装の安全、環境関連法規容リ法と環境配慮設計」 住本充弘氏
第3回 「段ボールと設計技報及び品質管理」 小坂正実氏
「包装機械全般と最新技術」 太田茂氏
第4回 工場見学会（ヤマサ蒲鉾、新日鉄住金）
第5回 「輸送緩衝包装設計と振動・落下・圧縮等包装試験適正」 寺岸義春氏
「防湿/防錆技術と輸出包装」 佐藤幸弘氏

2017 度(平成 29 年度)

□ 出前教育講座登録テーマ

- 1081：「飲料・食品に於ける酸素低減 LN2 充填方法、各種検査方法
（AI を用いた波形解析も含む）」 川井重弥氏
・ 出前教育講座講師派遣実績：10 件

□ 研究懇話会

- 「ネパールの氷河調査」 大森弘一郎氏
「海外の PET ボトル最新情報」 松田晃一氏
「液体窒素充填を使用した酸素濃度低下方法」 川井重弥氏
「ガーナ、ナイジェリアの食品流通事情」 白倉昌氏
「食品用容器包装の法改正とその影響」 増尾英明氏

□ 会報寄稿論文

「インターパック 2017 に見る世界の包装の動き」 住本充弘氏

「飲料容器に求められる酸素低減－LN2（液体窒素）充填を利用した新システム」

川井重弥氏

「ネパールでの体験」

大森 弘一郎氏

□ 日皮協ジャーナルに連載

日本産業皮膚衛生協会からの依頼により、協会の機関誌「日皮協ジャーナル」に「連載講座、容器・包装の基礎と応用」を6回にわたり連載することになった。

日皮協ジャーナル 第78号（2017年8月発行）

「日本包装コンサルタント協会の紹介」 住本充弘氏

「基礎編（1）包装概論」 大須賀弘氏

「応用編（1）機能性包装」 野田治郎氏

日皮協ジャーナル 第79号（2018年2月発行）

「基礎編（2）プラスチック包装材料」 土屋博隆氏

「基礎編（3）ガラスびん」 鹿毛剛氏

「基礎編（4）クロージャー」 杉崎喬氏

「応用編（2）化粧品包装の動向」 土屋博隆氏

第80号以降も続くことになる。

□ 松田晃一氏が「飲料容器の科学」を出版

ガラスびん・缶・紙容器・PETボトルといった飲料容器は、中身の飲料をおいしく長もちさせるために、さまざまな工夫がこらされています。知られざる数々の技術と、より軽く強く高機能の容器をめざしてきた進化と未来を紹介しています。



□ 関西支部活動及び研究会

□ 関西支部長に今田克己氏が就任

- ・近畿包装研究会 「包装と段ボール」 山崎潔氏
「製品包装開発」 今田克己氏



□ 関西支部 第7期包装技術セミナーの開催

- | | | |
|-----|--------------------------|-------|
| 第1回 | 「包装概論」 | 今田克己氏 |
| | 「ケーススタディ」 | 今田克己氏 |
| | 「ケーススタディ・製品における包装改良の評価例」 | 今田克己氏 |
| 第2回 | 「プラスチックリジッド容器」 | 今田克己氏 |
| | 「紙器・印刷・液体紙容器」 | 石川始氏 |
| 第3回 | 「段ボールとその設計技報」 | 石川始氏 |
| | 「輸送包装試験と緩衝包装試験」 | 高田利夫氏 |
| | 「包装の安全、環境関連法規」 | 住本充弘氏 |
| 第4回 | 工場見学会（森永乳業、沢の鶴） | |
| 第5回 | 「包装機械全般と最新技術」 | 中村義孝氏 |



ケーススタディで講師とディスカッション

4. 会員顔写真

会員（あいうえお順）2018年10月現在(平成30年) 東京の会員



朝岡 保雄



飯島 林蔵



池田 得三



伊藤 荘司



井上 伸也



井上 洋一郎



大須賀 弘



大森 弘一郎



小國 盛稔



鹿毛 剛



川井 重弥



小山 武夫



小松信夫



白倉 昌



杉崎 喬



住本 充弘



土屋 博隆



塚本 富陸



中山 秀夫



根本 憲一



野田 茂尅



野田 治郎



菱沼 一夫



増尾 英明



松田 晃一

関西本部



石川 始



今田 克己



太田 茂



小坂 正実



佐藤 幸弘



高田 利夫



中村 義孝



野上 良亮



平田 勝保



牧野 隆男



真多 博志



本山 達也



山崎 潔



寺岸 義春

新会員追加

日本包装コンサルタント協会年表

1983 年度 (昭和 58 年度)	日本包装コンサルタント協会設立 初代会長 桑靖彦氏
1984 年度 (昭和 59 年度)	
1985 年度 (昭和 60 年度)	
1986 年度 (昭和 61 年度)	
1987 年度 (昭和 62 年度)	会報創刊号
1988 年度 (昭和 63 年度)	2 代会長 木村年次氏
1989 年度 (平成元年度)	信頼できる知能集団のパンフレット作成
1990 年度 (平成 2 年度)	3 代会長 松本光次氏 東京パック 90 包装技術相談
1991 年度 (平成 3 年度)	「包装技術者として何をなすべきか」 答申 包装廃棄物セミナー開催
1992 年度 (平成 4 年度)	関西支部設立（初代支部長に有光茂氏） （株）共立物流システム内 英文パンフレット作成
1993 年度 (平成 5 年度)	
1994 年度 (平成 6 年度)	JPI 会議室より脱却
1995 年度 (平成 7 年度)	研究懇話会の開始 包装廃棄物セミナー開催（講師は会員）
1996 年度 (平成 8 年度)	4 代会長 濱口啓一氏 JPCA 便り（JPI の包装技術に記載） 関西支部研究会として開始

1997 年度 (平成 9 年度)	
1998 年度 (平成 10 年度)	
1999 年度 (平成 11 年度)	2 代関西支部長 真多博志氏
2000 年度 (平成 12 年度)	5 代会長 中山秀夫氏 東京パック 2000 包装 4 団体として運営「包装と環境」
2001 年度 (平成 13 年度)	関西支部 A-パック会場で包装相談所開設
2002 年度 (平成 14 年度)	出前教育講座・ホームページの開設 理事会会場の変更（東工大百年記念館へ） 関西支部事務所移転（大阪府東淀川区 PD ソリューションズ内）
2003 年度 (平成 15 年度)	
2004 年度 (平成 16 年度)	6 代会長 池田得三氏 会報 20 号を（カラー版）電子ファイルとして発行した。 関西支部シンガポール研修旅行
2005 年度 (平成 17 年度)	
2006 年度 (平成 18 年度)	
2007 年度 (平成 19 年度)	中国冷凍ギョーザ事件での情報提供
2008 年度 (平成 20 年度)	7 代会長 野田茂尅氏 東京パック 2008 で包装 4 団体共通展示パネル 3 代関西支部長 塩田利一氏
2009 年度 (平成 21 年度)	(株)日報主催の包装容器アカデミー講師派遣
2010 年度 (平成 22 年度)	関西包装コンサルティングの歴史
2011 年度 (平成 23 年度)	4 代関西支部長 太田茂氏 関西支部第 1 期包装技術セミナー開催

2012 年度 (平成 24 年度)	8 代会長 鹿毛剛氏 東京パック 2012「東日本大震災と包装の係わり」展示
2013 年度 (平成 25 年度)	Pack Show2013 でテクニカルセミナーの講師派遣 5 代関西支部長 野上良亮氏
2014 年度 (平成 26 年度)	
2015 年度 (平成 27 年度)	韓国研修旅行
2016 年度 (平成 28 年度)	9 代会長 住本充弘氏
2017 年度 (平成 29 年度)	6 代関西支部長 今田克己氏

出前講座一覧表

番号	出前講座テーマ	担当者
1001	包装の基礎Ⅰ（包装問題解決のお手伝い）	中山秀夫他
1002	物流の基礎と応用（物流問題解決のお手伝い）	太田茂（関西）
1003	環境対応問題について	飯島林蔵
1004	包装と食品保存性（食品包装の基礎）	鹿毛剛
1005	包装容器について（包装容器の基礎）	鹿毛剛
1006	利益向上のための改善活動と現場管理	池田得三
1007	包装の基礎Ⅱ（綜説）	小山武夫他
1008	包材コンバーターにおける安全衛生管理	中山秀夫
1009	包装用フィルムの基礎	小山武夫
1010	包装とプラスチック（包装用フィルムの応用）	真多博志（関西）
1013	機能性包装の現状と開発の動向について	中山秀夫
1014	包装商品量目管理と革新	菱沼一夫
1015	“不具合”の要因の摘出と改善	菱沼一夫
1016	ヒートシール技法の革新技術	菱沼一夫
1017	易開封性にみられるアクティブ・パッケージ	中山秀夫
1021	防湿包装技法の基礎と応用	中山秀夫
1022	食品包装材料および器具の衛生法	野田茂尅
1023	ユニバーサルデザインと包装（包装の基礎）	住本充弘
1025	食品容器の安全性について	増尾英明
1026	容器包装製造工場のGMP管理	増尾英明
1027	容り法とプラ容器廃棄物のリサイクルについて	飯島林蔵
1028	R F I Dの導入支援	菱沼一夫
1030	企業の利益向上とコンサルタントの役割	池田得三
1031	輸送包装技術の基礎知識	根本憲一
1036	包装の環境問題とは何か	大須賀弘
1037	環境適合設計	大須賀弘
1038	食品安全マネジメントシステム	大須賀弘
1039	プラスチック材料と軟包装袋の設計	大須賀弘
1040	緩衝包装の基礎知識（緩衝包装設計）	山崎潔（関西）
1041	包装と段ボール（段ボール包装設計）	山崎潔（関西）
1042	プラスチック容器・包装の臭気対策	鹿毛剛
1044	防錆対策を目的とした防湿包装技法	中山秀夫
1045	輸送包装の進め方	寺岸義春（関西）
1046	液体紙容器（製品設計と製造技術）	牧野隆男（関西）

1047	段ボールによる包装設計	井上伸也
1048	段ボール包装のコストダウン手法	井上伸也
1049	段ボールの知識	井上伸也
1050	包装における開発のチャンス	大森弘一郎
1051	身近で判る包装にある工夫	大森弘一郎
1052	環境問題の中での包装の長期方向	大森弘一郎
1053	5大汎用プラスチック基本物性概論（分子構造・機能発現）	杉崎喬
1054	プラスチック成形加工法概論（中空成形・射出成形）	杉崎喬
1055	プラスチック容器の評価項目と方法	杉崎喬
1058	包装ラインと包装機械（包装ラインの最適な機械化）	野上良亮（関西）
1059	包装分野における知的財産権の活用	白倉昌
1060	プラスチック容器の DLC コーティング 技術の応用、開発動向	白倉昌
1061	梱包方法の改善による梱包材のコスト低減	平田勝保（関西）
1062	商品設計と包装材料	今田克己（関西）
1063	包装と物流システムをつなぐ	中村義孝（関西）
1067	次世代の包装開発の考え方の支援	住本充弘
1068	売れる食品のための包装設計	野田治郎
1069	食品包装の品質保持技術	野田治郎
1070	特許資料（IPDL）から新包装を開発する！	大森弘一郎
1071	世界の気象環境と金属製品の腐食防止のための包装	佐藤幸弘（関西）
1072	飲料製造時の微生物制御（微生物事故の根絶にむけて）	松田晃一
1073	透明蒸着フィルムについて	土屋博隆
1074	電子レンジ食品と容器包装・食器について（基礎）	井上洋一郎
1075	包装貨物の評価試験方法	高田利夫（関西）
1076	段ボールの基礎知識	小坂正実（関西）
1077	包装作業の改善について	小坂正実（関西）
1078	包装設計と輸送条件	小坂正実（関西）
1079	軟包装材の基礎	石川始（関西）
1080	物流システムのメンテナンス	本山達也
1081	飲料食品に於ける酸素低減 LN2 充填方法、各種検査方法	川井重弥
1082	包装材料の基礎知識	小国盛稔
1083	包装製品開発支援	小国盛稔
1084	機能性包装材料の開発	小松信夫
1085	電子材料と電子部品の包装	小松信夫
1086	新会員追記	

寄稿論文一覧表

年	号数	タイトル	執筆者	分類
2004	20	「科学／技術と論理」	菱沼 一夫	
		「包装材料の基礎(No.1)」	小山 武夫	
		「韓国の包装事情」	伊藤 莊司	海外
		「シンガポール雑感」	塩田 利一 宮田 豊	海外 包装
		「ボケを科学する」	中山 秀夫	
2005	21	「interpack 2005 に観る包装躍進国の出展動向」	菱沼 一夫	海外
		「ICタグの活用と今後の展開」	住本 充弘	
2006	22	PACK EXPO International 2006 に観る 最近アメリカ包装界の動向	菱沼 一夫	海外 包装
		Wal-Mart の環境維持プログラム：“Scorecard” が アメリカ(世界)の包装界を震撼しているー		
		「食品容器包装器具の安全性に係わる最近の話題」	増尾 英明	食品 安全
2007	23	「大気圧イオン化質量分析計を用いた迅速気体透過度測定」	鹿毛 剛	新包装 技術
		「高信頼性ヒートシールの基礎と実際」 ー溶着面温度の測定法“MTMS”の活用ー	菱沼 一夫	新包装 技術
		「企業防衛のために不可欠な ISMS」 ー紙器段ボール企業の情報事故や機密漏洩の事例とその管理策ー	亀岡 孝三郎	企業 経営
2008	24	「インターパック 2008 の動向」	住本 充弘	海外 包装
		「強化された労働安全衛生マネジメントシステム」	亀岡 孝三郎	ISO 関係
		「紙製容器包装の安全性について(第一報)」	増尾 英明	食品 安全
2009	25	「企業再生について」	小山 武夫	企業 経営
		「小企業に役立つ品質 ISO」	亀岡 孝三郎	ISO 関係
2010	26	「北欧及び米国グローバルパウチフォーラムから 包装の流れを見る」	住本 充弘	海外 包装
		「顧客評価を高める環境 ISO」	亀岡 孝三郎	ISO 関係

		「関西包装コンサルティングの歴史」	関西支部	
2011	27	「清涼飲料用 PET ボトルの最新状況」	杉崎 喬	
		「“不幸中の不幸”:福島第1原発事故のコンプライアンス」 ー倫理的正義の遵守の検証と自己反省ー	菱沼 一夫	
		「ISO 規格におけるカタカナ言葉の活用法」	亀岡 孝三郎	ISO 関係
2012	28	「東日本大震災について包装はどの様に係わったか？」 ー今までの我々の包装製品の開発がどう貢献したかの検証と改善策ー	鹿毛 剛	
		「不幸中の不幸 福島第1原発暴走事故の原因考察」 ー原子力発電の非安全性の検討ー	菱沼 一夫	
		「Scanpack2012 とスウェーデン企業のパッケージビジネス戦略」	住本 充弘	海外包装
		「国際標準・環境ISOの文書化事例」	亀岡 孝三郎	ISO 関係
2013	29	「出版業の現状と課題」	小山 武夫	企業経営
		「IDPL 発想法の活用」	大森 弘一郎	特許
		「品質ISOの認証レベルと活用レベルの考察」	亀岡 孝三郎	ISO 関係
2014	30	「interpack 2014 と現状の包装動向考察」	住本 充弘	海外包装
		「包装の過去そして未来」ー各種飲料の容器の変遷ー	鹿毛 剛	
		「品質 ISO、全面的改訂の概要とその準備対策」	亀岡 孝三郎	ISO 関係
2015	31	「韓国研修旅行報告書」	伊藤 荘司	海外
		「暮らしの包装商品展 2015」	鹿毛 剛	
		「ジャパンパック 2015 を見学して」	塚本 富陸	
2016	32	「ここだけは押さえない！包装開発のポイント」ー液体食品ー	鹿毛 剛	
		「プロダクト・バイ・プロセス・クレームについて」	土屋 博隆	特許
		「第1回ドリンクジャパンでの講演概要と K2016 出張レポート」	松田 晃一	国内外包装

2017	33	「インターパック 2017 に見る世界の包装の動き」	住本 充弘	海外
		「飲食容器に求められる酸素低減」--液体窒素充填を利用した新システム--	川井 重弥	新包装技術
		「ネパールでの体験」	大森 弘一郎	

35 周年記念誌制作を終えて

日本包装コンサルタント協会の 35 周年の記念行事の大綱が 2017 年 6 月の理事会で決まった。大綱は記念式典のほかに 35 周年記念誌の発行などであった。その後、編集委員会が発足した。

当協会は、1983 年に創立されたが、事務局体制が不備で当時の資料が残っていなかった。創立 21 年後の 2004 年には、ホームページが整備されたので、会報 20 号以降は、資料としては十分であった。

まずは、1987 年入会の朝岡保雄氏、元役員の石原昌具氏、本石靖夫氏から会報、総会議案書、会員名簿やセミナー事業などの資料を寄贈していただいた。しかしながら、全部揃ったわけではなかった。総会議案書や会報は 6～8 頁程度で、本部中心の内容が多く、関西支部の内容は貧弱であった。寄せ集めた資料から、編集作業に入った。

当会は、コンサルタント業務が主目的であるが、個別の案件については、秘密保持の観点から、内容の記載を省略した、しかしながら、公的機関の依頼のもの。或いは私的であってもコンサルタント業務が 5～10 回のは実績として記載し、又、海外のものについても記載した。講演やセミナーの講師については公的なものに限定した。執筆依頼については、数があるので省略したが、書籍の出版については、取り上げた。写真を多く入れて読み易いもの为目标にしたが、創立 20 年までは写真が少なく、文書が多くなりすぎたのは残念であった。

諸先輩の業績の足跡の 35 年間にまとめることができ、会員の皆様にお届けできたことは大きな喜びです。今後、当会がますます発展していくことを祈念します。

記念誌編集に際し、ご協力ご支援を頂いた内外の多数の方々に、重ねて厚くお礼を申し上げます。

2018 年 10 月

35 周年発行委員会

委員長：鹿毛 剛

委 員：住本充弘・白倉昌